



## 今週のPOINT

### 国内株式市場

「熱狂なき史上最高値更新」、需給面などから今週は小さな調整か

### 今週の分析銘柄 - FISCO Selection 8 -

アサヒグループHD【プライム 2502】ほか

### テーマ別分析

夏の旅行シーズンとパリ五輪控え旅行予約関連に注目

### 話題のレポート

東証のTOPIX浮動株比率定期見直しで影響が見込まれる銘柄

### スクリーニング分析

高値圏にある好需給銘柄は警戒イベント通過で一段高の期待も

日経平均、TOPIXともに史上最高値更新

1	今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3	
			新興市場	4	
		米国株式市場		5	
		為替市場	米ドル/円予想レンジ	6	
		債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6	
2	マーケットを読む	今週のポイント		7	
		日経平均株価		8	
3	今週の分析銘柄	FISCO Selection	アサヒグループHD〈2502〉プライム	9	
			トリドールHD〈3397〉プライム	10	
			eWeLL〈5038〉グロース	11	
			守谷輸送機工業〈6226〉スタンダード	12	
			ダイキン工業〈6367〉プライム	13	
			ホシザキ〈6465〉プライム	14	
			日本マイクロニクス〈6871〉プライム	15	
			ASNOVA〈9223〉グロース	16	
			読者の気になる銘柄	ファーストリテイリング〈9983〉プライム	17
				三越伊勢丹HD〈3099〉プライム	17
			テクニカル妙味銘柄	ミニストップ〈9946〉プライム	18
				オムロン〈6645〉プライム	18
4	カテゴリー考察	テーマ別分析		19	
		スクリーニング分析		20	
		先週の話題レポート		21	
		信用需給動向		22	
5	連載コラム			23	

## 「熱狂なき史上最高値更新」、需給面などから今週は小さな調整か

### ■プライム市場の時価総額が史上初の 1000 兆円

先週の日経平均は週間で 1329.29 円高(+3.36%)の 40912.37 円と上昇。引き続き保険や銀行など金融株が買われたほか、精密機器などにも物色が向かったことなどから日経平均、TOPIX はともに上げ幅を広げ、史上最高値を更新した。

7月30-31日に開催される日本銀行の金融政策決定会合に対する思惑などを背景に長期金利の指標となる新発10年物国債利回りが1.100%まで上昇。時価総額が大きい三菱UFJFG<8306>が全市場売買代金でトップになるなど引き続き金融株が買われたほか、一部証券会社のポジティブなレポートや、米アップルの上昇などが刺激材料となりTDK<6762>や村田製作所<6981>など1-3月にさほど買われていなかった電子機器関連が上昇。プライム市場の売買代金は4兆円ほどと高いはさほど膨らんでいないが、先物市場で断続的な買戻しと見られる買いも観測されたことから、日経平均、TOPIXはそろって7月4日、史上最高値を更新した。同時にプライム市場の時価総額も史上初めて1000兆円台に乗せた。

なお、6月第4週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は現物を1141億円買い越しのほか、TOPIX先物を1787億円買い越し、225先物は922億円買い越しことから、合計3850億円の買い越しとなった。一方、個人投資家は現物を4722億円売り越しなど合計で5395億円売り越し。なお、自己は現物を4141億円買い越しした。

### ■サイコロジカルでは過熱感も

7月5日の米国株式市場は上昇。ダウ平均は前日比67.87ドル高(+0.17%)の39375.87ドル、ナスダックは164.46ポイント高(+0.90%)の18352.76、S&P500は30.17ポイント高(+0.54%)の5567.19で取引を終了した。大証ナイト・セッションの日経225先物は、通常取引終値150円高の41010円で取引を終えた。

日経平均は日足ベースでは、25日移動平均線との上方乖離率は4.4%、200日移動平均線とは13.1%に留まっており、3月から4月に見られた「25日移動平均線+7%乖離」や「200日移動平均線+20%乖離」と比べると短期的な過熱感は乏しい。個別銘柄では、三菱重工業<7011>が10連騰するなど強さが目立つ銘柄も散見されるが、指数は「熱狂なき史上最高値更新」といった地合いだ。さすがに4日時点のサイコロジカルライン(12営業日での上昇、下落の割合)が83%(10勝2敗)と買われ過ぎの水準まで上昇していたことで、週末は前日比小幅マイナスとなったが、6月の米雇用統計発表や2回目のフランス国民議会(下院)選挙などを控えていたことから、当然の

調整と言えよう。海運株、金融株、精密機械株、半導体株などが循環的に買われており、投資家心理は良好と考える。

7月下旬あたりから3月期決算企業の第1四半期業績発表が増えてくることで、今後、決算への期待感を材料に主力株が買われる可能性はある。第1四半期決算のタイミングで、今期予想を早々に上方修正する企業は少ないと思うが、「TOPIXの史上最高値更新」を見た外国人投資家が日本株買いに走れば、日経平均やTOPIXは上値追いの展開となる可能性もある。

### ■ETFの売りが心理的な重しに

市場では、今週決算日を迎える上場投資信託(ETF)の売りが警戒されている。投資家への分配金を捻出するために売りが入るとの見込みで、証券会社による試算では、現物株と先物の合計で1兆円から1.3兆円ほどのことだ。毎年、この時期になると話題となる話なので、既に織り込まれており影響は限定的との見方だが、昨年の日経平均の年間高値は7月3日(33753.33円)につけているので、投資家心理としては気になるところだ。需給面でのネガティブイベントが控えているため積極的な売買は手控えられて、今週の東京市場は様子見ムードが強まる可能性はある。個別株を含め、足元の上昇に対する過熱感を冷ますような小さな調整を想定する。なお、為替は1ドル160円台で推移している。政府・日本銀行による円買い介入観測は引き続き強いが、「急ピッチ」な円安ドル高が進行しているわけではないので、円買い介入は実施しにくいとの見方が強い。日銀会合の2-3週間前あたりから、日銀関係者による情報が伝わり始めることで、日銀会合リーク情報を巡る為替市場や金利市場の動向に要注目となる。

### ■11日に米CPI、12日に米PPI

今週は、国内では、8日に5月国際収支、6月景気ウォッチャー調査、10日に6月国内企業物価指数、11日に5月機械受注、12日に5月鉱工業生産などが予定されている。

海外では、9日に豪・7月ウエストパック消費者信頼感指数、10日に中・6月生産者物価指数(PPI)、消費者物価指数(CPI)、NZ・ニュージーランド準備銀行(中央銀行)が政策金利発表、トルコ・5月鉱工業生産指数、米・5月卸売在庫、週次原油在庫、11日に独・6月PPI、CPI(改定値)、英・5月鉱工業生産指数、製造業生産高、貿易収支、米・6月CPI、週次新規失業保険申請件数、12日に独・5月小売売上高、中・6月貿易収支、米・6月PPI、7月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報値)などが予定されている。

## グロース市場 250 指数は引き続き 75 日線の攻防、直近 IPO に関心向かうか

### ■仕切り直しの展開に期待

今週の新興市場は、短期的な上昇に対する利益確定売りをこなしたことから、しっかりと地合いとなりそう。今週のプライム市場では上場投資信託 (ETF) の決算に絡んだ売りが1兆円超入るとの見通し。ある程度、市場では織り込まれているとの見方だが、先週大幅高したこともあり心理的な重しとなる。その分、新興市場に循環的な物色が向かう可能性がある。先週前半にかけて、新興市場は利益確定の流れがやや強まっていたことから仕切り直しの展開に期待したい。グロース市場指数、グロース市場250指数とも240,000,000に75日移動平均線にいったんは跳ね返されたが、再度、この水準突破を試す展開を迎えている。25日移動平均線が上向いていることから5月30日の年初来安値を起点とした反発は継続。足元しぼんでいた売買代金が再び増加すれば、上を意識した上昇は強まると考える。コンスタントに2000億円前後の売買代金ができる地合いとなれば投資家のモメンタムも強気となる。

### ■時価総額の大きい銘柄に関心向かうか

年初来安値圏からの戻りを試した6月相場の柱はサンバイオ<4592>、クオリプス<4894>などバイオ関連銘柄だったが、先週のサンバイオは信用規制が入ったこともあり、週間ベースでは24%の下落となった。いったんは短期リバウンドを見せるかもしれないが、信用規制が解除されない限り売買代金を伴った上昇は厳しいところだ。今週はGENDA<9166>や弁護士ドットコム<6027>など時価総額が大きくしっかりとした動きを見せている銘柄に関心が向かう。また、今週は新規株式公開 (IPO) が予定されていないことから、投資家の物色は直近IPOに向かうと想定する。初値近辺まで調整した豆蔵デジタルHD<202A>や、先週上場来高値を取ったChordia Therapeutics<190A>、4月の上場来高値に迫っているダイブ<151A>あたりは関心を高めたいところだ。

東証グロース市場 250 指数



弁護士ドットコム<6027>



GENDA<9166>



## パウエル FRB 議会証言でより「ハト派」発言出るか注目/米国株式相場 今週の見通し

### ■先週の動き

先週の米国株は上昇。週間ベースの騰落率は、NY ダウが+0.66%、ナスダックは+3.50%、S&P500は+1.95%とナスダックの上昇が際立った。先週は独立記念日の祝日等で立ち合い日が少なかったなか、パウエル連邦準備制度理事会（FRB）議長が「インフレが再び鈍化傾向にある」と発言したことで長期金利が低下。JOLTS、新規失業保険申請件数、ADP雇用者数、雇用統計と雇用関連の経済指標が総じて弱かったことも早期利下げ期待を高める材料となった。長期金利低下によって、アマゾンやアップルなど主要ハイテク銘柄は上昇。ナスダック、S&P500は連日で史上最高値を更新した。

個別では、百貨店のメーシーズが、投資会社アークハウス・マネジメントと資産運用会社のブリゲード・キャピタル・マネジメントによる買収提示額引き上げとのウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）紙の報道を受けて買われた。電気自動車メーカーのテスラは、中国地方政府の公用車として初めて調達対象になったことが江蘇省公表のリストで判明し上昇。8連騰と強い動きを見せた。メディア・映画大手パラマウント・グローバルは、独立系映画製作会社スカイダンス・メディアがパラマウントのオーナー企業ナショナル・アミューズメントを買収し、パラマウントと事業統合を行うことで暫定合意したとの報道を受け上昇した。オンライン決済のペイパル・ホールディングスは投資判断の引き上げを受けて買われた。半導体メーカーのエヌビディアは週間ベースでは上昇したが、週末はアナリストの投資判断引き下げを受けて弱かった。ネット通販大手のアマゾンは、史上最高値更新で200ドルに到達したが、業者ジェフ・ベゾス氏が保有する約50億ドル相当のアマゾン株を売却することを計画していると規制当局への提出文書で分かったことで、上値がやや重くなった。

一方、自動車メーカーのフォードは、ステアリングの不具合で3万台の「マスタング」リコールを発表したことで売られた。格安航空会社のスピリットやフロンティアはアナリストが投資判断を引き下げたことで下落。ビールなどの飲料会社コンステレーション・ブランズは四半期決算を発表し、調整後1株利益は予想を上回ったが売上高が届かなかったことで売られた。製薬大手ノボ・ノルディスクとイーライリリーは、バイデン大統領が両社の肥満症・糖尿病治療薬について値下げを要求したことが嫌気されて売られた。

### ■今週の見通し

今週の米国株は、経済指標と要人発言、そして、企業決算を睨んだ展開となろう。まずは経済指標だが、11日に6月消費者物価指数（CPI）、12日に生産者物価指数（PPI）がそれぞれ発表される。PCEデフレーターと並びFRBが重要視する経済指標のため注目だ。5月のCPIは、前年同月比の上昇率が3.3%となった。市場予想は4月と同じ3.4%で、前月比では伸びが止まった。6月末に発表された5月のPCEデフレーターも前月比では伸びが鈍化したことから、足元のデータでは、高いインフレは緩やかな鈍化傾向にある。先週のパウエルFRB議長の発言の根拠はこれらのデータと推測する。そのパウエルFRB議長は、9日に上院銀行委員会で、10日に下院金融サービス委員会で、それぞれ半期に一度の金融政策報告に関する議会証言を行う。6月のCPI、PPI発表前ではあるが、先週の弱い雇用関連のデータがアップデートされた状況下の議会証言のため、パウエルFRB議長の発言が先週より「ハト派」となる可能性もある。議会証言後に長期金利が直近最も低かった4.2%水準を下回る状況となれば、主要ハイテク株への刺激材料となり、ナスダック、S&P500は史上最高値を更新する公算大だ。

一方、週末のJPモルガン・チェースやシティグループなど金融株を皮切りに企業決算が徐々に増えてくる。ピークは7月下旬から8月1日にかけてだが、個別物色が強くなることで、主要3指数ともども賑やかな地合いとなりそうだ。NYダウはナスダック、S&P500と比べると上値が重い状況だが、ダウ採用銘柄の決算次第では大きく動く可能性があるため、出遅れ修正が見られる可能性もあろう。

経済指標では、10日に5月卸売在庫、週次原油在庫、11日に6月CPI、週次新規失業保険申請件数、12日に6月PPI、7月ミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）などが予定されている。

主要企業決算は、10日にオーシャンパワー、11日にデルタ航空、ペプシコ、12日にバンク・オブ・ニューヨーク、JPモルガン・チェース、ウェルズ・ファーゴ、シティグループなどが予定されている。

## 為替市場

米ドル・円 予想レンジ	159.00 円 ~ 162.00 円
-------------	---------------------

今週のドル・円は下げ渋りか。米インフレ指標の鈍化が見込まれ、引き締めの金融政策の後退でドル売りが一時的に強まる可能性がある。ただ、ユーロ・円、ポンド・円、豪ドル・円などクロス円レートは株高を意識して底堅い動きを保っており、目先の米ドル・円はクロス円レートの動向に影響される可能性がありそうだ。

パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長は7月2日、欧州中央銀行（ECB）主催の会合で、足元のインフレ圧力低下を認めながらも、利下げに先立ちそれを確認するデータを確認する必要があるとの認識を示した。9日に予定される証言でもほぼ同じ内容の見解が予想される。同氏の発言を受けて長期金利の上昇は抑制され、リスク選好的なドル買いはやや縮小する可能性がある。なお、11日発表予定の6月消費者物価コア指数（CPI）は前年比+3.4%と予想されている。市場予想と一致、または下回った場合、インフレ鈍化を意識してドル売り要因になる。

### 【米・パウエルFRB議長証言】（9日開催予定）

7月9日に予定されているパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長の証言で、引き締めの政策方針を維持するか注目される。この場で早期利下げに慎重な見解が表明された場合はドル高要因となろう。

### 【米・6月消費者物価コア指数（CPI）】（11日発表予定）

7月11日発表の米6月消費者物価コア指数（CPI）は前年比+3.4%と予想されている。市場予想と一致、または下回った場合、インフレ鈍化を意識してドル売り要因になる。

## 債券市場

債券先物予想レンジ	142.20 円 ~ 143.10 円
長期国債利回り予想レンジ	1.060 % ~ 1.100 %

### ■先週の動き

先週（7月1日-5日）の債券市場では長期債利回りは弱含み。年内利下げ観測の高まりで米国の長期金利が低下したことを受けて、7月4日に行われた30年国債入札を無難に終えたことから、長期債の気配もややしっかりとなった。ただ、5日の取引では、日本銀行が国債買い入れの大幅な減額や早期の追加利上げに踏み切ることに警戒感が消えていない中、週末前のポジション調整的な売りが観測され、中期債や超長期債の利回りは下げ渋った。

10年債利回りは1.075%近辺で取引を開始し、一時1.055%近辺まで低下したが、為替相場の円安継続を受けて一時1.108%近辺まで反発し、1.079%近辺でこの週の取引を終えた。

債券先物9月限は強含み。142円53銭で取引を開始し、7月2日の夜間取引で142円23銭まで売られた。ただ、円安進行が一服したことから債券先物は反転し、142円89銭まで買われた。その後も30年国債入札の順調な結果を好感した買いが観測されており、5日の取引で債券先物は142円91銭まで上昇。142円89銭でこの週の取引を終えた。

### ■今週の見通し

今週（7月8日-12日）の債券市場では長期金利が小幅に上昇する可能性がある。日本銀行が7月9-10日に開く債券市場参加者会合での議論の内容を受け、国債買い入れの減額が大幅になることへの警戒感から売り圧力が高まりやすい。欧米諸国の長期金利は伸び悩み可能性があるが、国内は円安継続などの影響で金利上昇圧力がかなりやすい。一方、今週行われる5年国債と20年国債の入札では利回り水準の高さが評価されており、国内投資家から一定規模の需要が見込めそうだ。欧米諸国の長期金利は伸び悩み可能性があるが、国内は円安継続などの影響で金利上昇圧力がかなりやすい。

債券先物9月限はもみ合いか。日本銀行による国債買い入れ額が大幅に減少するとの見方は増えていないものの、20年国債の入札状況が期待を下回った場合、債券先物の上昇は抑制されそうだ。為替相場の円安進行も警戒され、債券先物は143円近辺で上げ渋る可能性がある。

## 米国の早期利下げ期待再燃、今週はイベント通過による安心感も台頭へ

先週の日経平均は大幅続伸、週末には3月22日の高値水準を更新している。TOPIXも4日には34年半ぶりに史上最高値を上回った。米国の早期利下げ期待が再燃する状況となったほか、総選挙第1回投票結果を受けてフランス政局に対する過度な懸念も後退する形に。業種別では、コンテナ船市況の上昇を手掛かりに海運セクターが上昇率トップ、国内長期金利上昇を映して保険や銀行など金融株も堅調推移。週前半には好決算発表が相次ぎ百貨店株が買われ、非鉄市況上昇で資源株が上昇の場面も。電子部品の主力が一斉高となる局面も見られた。

小売セクターでは、Jフロントや高島屋が第1四半期好決算から揃って業績予想の上方修正を発表している。ワールドやファストリなど衣料品専門店も総じて6月の月次好調が目立った。サイゼリヤも6月月次が上値追い材料となる。一方、オンワード、アダストリアは第1四半期減益決算が売り材料視され、ABCマート、DCMHDも決算を受けて売り先行。ほか、キューピーは業績上方修正が、スターマイカは上半期上振れによる増益決算が好感される、ダイセキも第1四半期は想定以上に底堅い決算と評価。霞が関キャピも大幅増益決算に評価の動き先行。半面、ネクステージは3-5月期営業減益で売り優勢、象印も上半期減益決算を嫌気。アスクルも決算マイナス視へ。トーエネックは株式売出による需給悪化懸念が優勢に。日金銭は新紙幣発行開始で出尽くし感強まる。川崎重工は海自隊員に金品提供の疑いと伝わり一時大幅安。アインHDはM&A発表も売り先行へ。

先週末に発表された米雇用統計では、雇用者数が市場予想を上振れたものの、失業率は悪化して、平均時給の伸びも落ち着いたものとなっている。9月利下げ期待が高まる状況と受けとめられ、目先の米国株には支援となつてきそう。米国では11日にCPIの発表を控えているが、9-10日のパウエル議長議会証言でハト派姿勢が一段と強まる可能性も高く、株高カタリストとなろう。国内では、7月8日、10日にETF分配金捻出の為、計1兆円強の先物・現物売りが見込まれている。短期的な需給面への影響は避けられないだろうが、イベント通過後は需給の改善が期待できることにもなる。先週はTOPIXも史上最高値を更新する展開となっているが、短期的に達成感が広がるような流れにもなりにくいだろう。フランスの議会選挙の影響リスクは先行き残るほか、月末にかけての日銀会合前には警戒感が強まろうが、目先は引き続き上値追いの公算が大きいようにみられる。

来週のASML、TSMC決算前に半導体関連には期待感が先行しやすいとみられるほか、防衛関連も引き続き注目度の高い状況が続こう。一方、主力の金融関連には米国の金利低下が警戒視される余地。今週国内では、ファストリ、セブンアイ、良品計画など小売企業のほか、ローツェやベイクレントなどの決算発表も予定されている。米国では週末に金融株の4-6月期決算発表がスタートする。なお、先週末には安川電機が決算を発表しているが、営業利益はコンセンサスを大きく下振れており、設備投資関連にはネガティブな影響が見込まれる。

### 先週動いた銘柄・セクター（東証プライム）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	上位セクター	騰落率(%)
9644	タナベコンサルティンググループ	1,348.0	23.11	6418	日本金銭機械	1,161.0	-15.93	海運業	7.43
4385	メルカリ	2,407.5	20.53	5535	ミガロホールディングス	2,075.0	-15.62	機械	5.17
6525	KOKUSAI ELECTRIC	5,610.0	19.62	1946	トーエネック	5,170.0	-13.69	保険業	5.07
7011	三菱重工業	2,036.0	18.17	2685	アダストリア	3,210.0	-11.69	卸売業	3.98
3086	J. フロント リテイリング	1,962.0	16.96	3103	ユニチカ	287.0	-10.87	その他 金融業	3.40
7013	IHI	5,616.0	16.88	6351	鶴見製作所	4,355.0	-10.39	情報・通信業	3.38
3099	三越伊勢丹ホールディングス	3,528.0	16.82	9722	藤田観光	8,730.0	-10.37	電気機器	3.29
7715	長野計器	3,410.0	15.59	9627	アインホールディングス	5,375.0	-10.24	下位セクター	騰落率(%)
9107	川崎汽船	2,700.5	15.41	7388	F Pパートナー	2,664.0	-8.92	パルプ・紙	-2.84
5480	日本冶金工業	5,220.0	14.22	1663	K&Oエナジーグループ	3,490.0	-8.76	電力・ガス業	-2.45
7745	A&Dホロンホールディングス	3,350.0	13.44	6036	Keeper技研	3,755.0	-8.41	水産・農林業	-1.43
6532	ベイクレント・コンサルティング	3,662.0	13.02	6517	デンヨー	2,675.0	-8.39	陸運業	-0.93
8614	東洋証券	402.0	12.92	2726	パルグループホールディングス	1,664.0	-8.22	ゴム製品	-0.88
7735	SCREENホールディングス	16,270.0	12.21	8362	福井銀行	2,122.0	-8.18	繊維業	-0.84
8242	エイチ・ツー・オー リテイリング	2,639.0	10.79	9948	アークス	2,674.0	-8.02	非鉄金属	-0.02

## 上値追い継続、13 週線が上昇開始

### ■中長期の上昇局面入りを示唆

先週（7月1-5日）の日経平均株価は2週連続で上昇した。1週間の上げ幅は1329.29円（前週986.61円）だった。

東証と大阪取引所の投資部門別売買状況では、現物・先物合算で海外投資家は6月4週（6月24日-28日）、買い越しに転じた（3850億円、前週は6392億円の売り越し）、現物も買い越しに転じた（1141億円、前週は185億円の売り越し）。

先週の日経平均は上値を追った。7月2日に4万円回復後も上値を伸ばし、週末5日は史上最高値となる41100.13円まで上昇した。この間、4日には右肩上がりの75日移動平均線を25日線が上抜いてゴールデンクロスを示現し、中長期の上昇局面入りを示唆した。

週足ではローソク足が3本連続陽線で終了。高値と安値も連続して切り上がって赤三兵を示現し、買い気の盛り上がりを見せた。株価下方では、13週線が上向きに転じて上値追い再開を示唆している。

今週は上値追い継続が予想される。25日線など主要な移動平均線は軒並み上向いている。一目均衡表は日足、週足ともに三役好転下の強気形状にあり、転換線と基準線が上向いており、上昇圧力の強さを窺わせている。

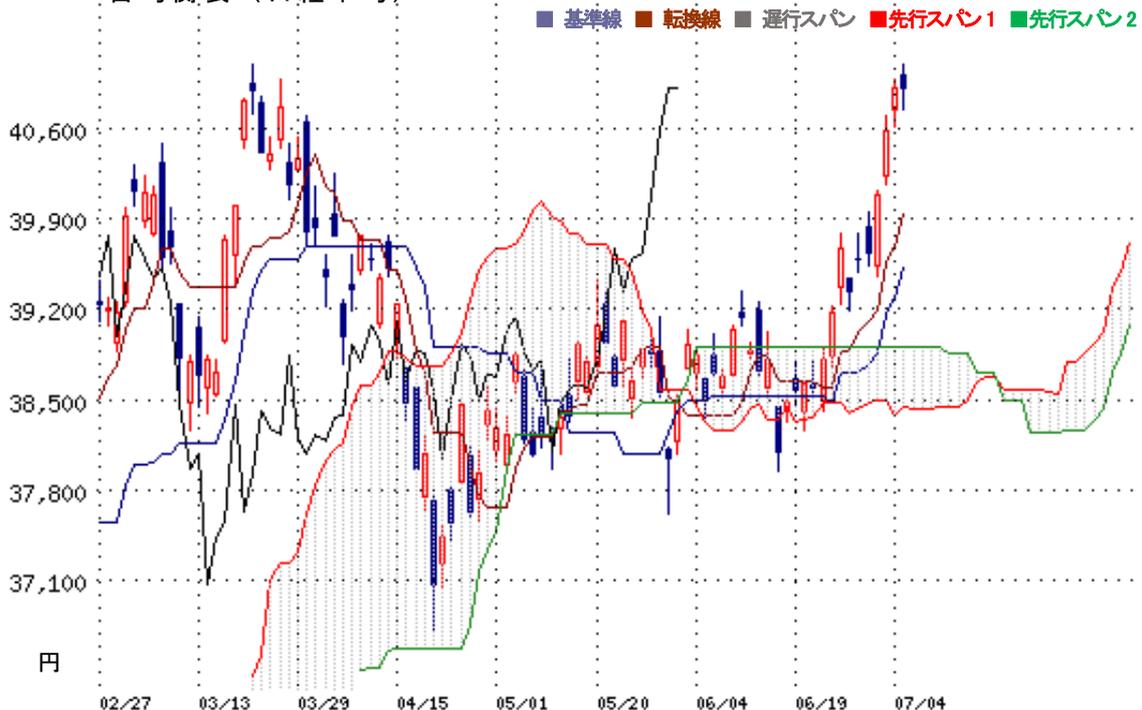
ボリンジャーバンドでは、先週末まで4日連続で終値が+2σを上回り、上値拡張局面入りを示唆している。+1σの値幅は757.96円（先々週末384.57円）に急拡大したが、絶対水準は大きくない。-2σから+2σまでの各線が中心線から離れていく「5本線発散」が続いており、日々の値幅が上下どちらの方向にも大きくなる可能性に留意が必要となろう。

6月17日安値から7月5日高値まで3149.93円高と急騰した後ではあるが、25日線との上方乖離率は4.44%と買われ過ぎゾーン入り5%に届かず、上値余地を残す格好。

先週末終値が25日線を上回る銘柄は日経平均採用225銘柄のうち165銘柄（先々週末6月28日は132銘柄）に増加する一方、東証プライム全上場銘柄では67%（同73%）に減少。相場全体では短中期投資家の買い余力がやや低下したとみられ、利益確定売りが増加するリスクが意識される。

上値では、節目の42000円から25日線比8%高42305.31円が抵抗ゾーンとして作用しよう。下値では直近マド下端に相当する2日高値40113.48円前後が支持帯となろう。

一目均衡表（日経平均）



## アサヒグループホールディングス〈2502〉プライム 高価格帯の「未来のレモンサワー」の販売好調

### ■ニッカウキスキーは1本33万円のウイスキー発売

6月11日から発売された「未来のレモンサワー」の販売が好調である。蓋を開けると輪切りレモンが浮かび上がる世界初の缶酎ハイであり、主力ビール「スーパードライ」より単価を高く設定しているが、スーパーやドラッグストアで品薄状態になっており、入手が困難な状態である。また、傘下のニッカウキスキーは創業90周年を記念し、「ザ・ニッカ ナインディケイズ」を発売。1本33万円、国内外4000本限定で発売するなど、高価格帯で先行する。インバウンド需要の増加と円安により、訪日外国人の一人当たりのウイスキーの消費額は増加。23年10月のビール減税以降、国内のビール需要が拡大しているほか、連日の猛暑やバリ五輪の開幕が近づくなか、アルコール飲料の需要増加が見込まれる。

### ■18年1月の上場来高値が射程に

株価は5月21日に付けた6001円をピークに調整を継続して

### ★リスク要因

大麦など原料価格の上昇。

売買単位	100 株
7/5 終値	5550 円
目標株価	6080 円
業種	食料品

いるが、200日線が支持線として機能しており、押し目狙いのタイミングとなりそうだ。週間形状では52週線が支持線として機能しているほか、26週線とのゴールデンクロス示現により、両線が支持線として意識されやすいだろう。目標株価は18年1月の上場来高値(6076円)更新を想定した6080円とする。

2502: 日足

200日線が支持線として機能。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/12連I	2,027,762	-2.9%	135,167	125,399	-36.5%	92,826	196.52
2021/12連I	2,236,076	10.3%	211,900	199,826	59.4%	153,500	302.92
2022/12連I	2,511,108	12.3%	217,048	205,992	3.1%	151,555	299.10
2023/12連I	2,769,091	10.3%	244,999	241,871	17.4%	164,073	323.82
2024/12連I予	2,840,000	2.6%	273,000	266,500	10.2%	190,500	375.98

## トリドールホールディングス〈3397〉プライム

### 「丸亀製麺」が主力、「麺職人」や「丸亀うどんなつ」など話題豊富

#### ■海外事業が大幅増収

セルフ形式の讃岐うどん店「丸亀製麺」が主力。店舗数は直営840店。このほか、濃厚豚骨ラーメンの「ずんどう屋」(87店)や、ハワイアンカフェ「コナズ珈琲」(42店)なども手掛ける。海外は香港、中国など世界30カ国・地域で861店(直営432店、FC429店)を展開する(店舗数は24年3月末時点)。売上構成は、丸亀製麺が50%を占め、国内その他が12%、海外事業が38%。24年3月期は、売上収益2319.52億円(前期比23.2%増)、営業利益は116.47億円(同56.0%増)。全セグメントが増収。特に、昨年7月に子会社化したピザとギリシャ料理の英フルハム社の寄与もあり、海外事業の売上収益が前期比44.2%増と伸び、収益寄与した。

#### ■今期営業利益は21.1%増予想

25年3月期は、売上収益2650億円(前期比14.2%増)、営業

売買単位	100 株
7/5 終値	3777 円
目標株価	4850 円
業種	小売業

利益は141億円(同21.1%増)を見込む。この春より、同社独自の「麺職人」が全店舗に誕生し、来店客の話題にもなっているほか、新製品「丸亀うどんなつ」も新しいファンを集めるきっかけとして注目されているなど足元では話題が豊富となっている。株価は調整局面だが、年初来高値4850円を目標としたい。

#### ★リスク要因

海外事業の成長度合いなど。

#### 3397:日足

6月安値を底に反転上昇の動きに。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連I	134,760	-13.9%	-7,336	-9,119	-	-5,456	-
2022/3連I	153,355	13.8%	14,243	13,935	-	8,979	99.25
2023/3連I	188,320	22.8%	7,466	7,726	-44.6%	3,827	39.58
2024/3連I	231,952	23.2%	11,647	10,839	40.3%	5,675	60.70
2025/3連I予	265,000	14.2%	14,100	12,300	13.5%	6,460	69.71

## eWeLL 〈5038〉 グロース

### 全国4万人以上の看護師が使用する電子カルテ「iBow」を提供

#### ■月間140万件以上の医療データ

22年9月上場。主力サービスは訪問看護専用電子カルテ「iBow」を中心としたクラウド事業と、そのサービスを活用した完全リモートのクラウド BPO 事業。「iBow」を利用するアクティブユーザは23年12月末時点で全国4.4万人以上の看護師であり、月間140万件以上の医療データを蓄積し続けている。在宅医療の普及が急がれる一方、深刻な看護師不足の状況が続いており、看護師の業務効率化に対するニーズは高まっているという。

#### ■4月にリリースしたAI訪問看護計画が好評

24年12月期第1四半期(24年1-3月)は、売上高5.74億円(前年同期比23.4%増)、営業利益率40.7%(同7.1pt低下)で着地。上期は積極的な人材採用計画の影響で営業利益率が低下しているものの、当初想定以上で着地している。月次平均解約率は0.15%と低水準を維持。4月にリリースした AI 訪問看護計画は、

売買単位	100 株
7/5 終値	1410 円
目標株価	1650 円
業種	情報・通信業

顧客からの評価も好評で、5月10日時点で既に利用回数1万件を突破。現在は無料で提供しているが、10月の有料化スタートに向けて更なる精度向上に努めるといい、今後の収益寄与が期待される。株価は200日線突破を目指し1650円を目標とする。

#### ★リスク要因

システム障害発生など。

#### 5038: 日足

75日線をサポートに反発局面入りとなるか。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/12単	790	49.1%	201	203	-	184	439.67
2021/12単	1,192	50.9%	401	403	98.5%	340	809.25
2022/12単	1,603	34.5%	692	676	67.7%	449	67.18
2023/12単	2,069	29.1%	908	910	34.6%	612	86.12
2024/12単予	2,560	23.7%	1,111	1,112	22.1%	749	52.66

## 守谷輸送機工業〈6226〉スタンダード

## 荷物用エレベーター等の製造・販売および保守・修理事業を展開

## ■顧客の様々なニーズに対応した製品を展開

荷物用エレベーター等の製造・販売および保守・修理事業を展開。売上構成は、エレベーターの製造・販売が約6割、保守・修理が約4割。販売台数が増加すると、利益率の高い保守・修理の売上にも繋がる循環ができています。荷物用エレベーターはオーダーメイドが基本となるため、個別仕様への対応力が求められる。単品生産、要望に合わせて設計するよりも、標準品を大量生産することを得意とする大手乗用エレベーターメーカーは、成長余地を海外に求めており、競争は少ない。顧客の様々なニーズに対応した製品を展開できるのが強みとなる。

## ■設備投資関連で需要が増加

24年3月期は、売上高175.7億円(前期比13.7%増)、営業利益25.93億円(同3.3倍)で着地した。新設エレベーターの販売台数は434台、保守台数は販売台数増加に伴って7100台を突破。新設エレベーターの販売台数は前期より減少したが単価の上昇

売買単位	100 株
7/5 終値	1525 円
目標株価	1800 円
業種	機械

が貢献した。また、保守・修理売上も寄与し売上高は過去最高を更新。25年3月期は1桁増収増益を見込む。高単価案件の受注継続は同社業績を押し上げそうだ。足元では従来の需要に加えて、半導体関連の工場やデータセンターなどの設備投資に合わせて需要が増加している。底堅い業績拡大に注目したく、まずは1800円を目標株価としたい。

## ★リスク要因

今後大手が参入するなど。

## 6226: 日足

25日線・75日線ともに上向き基調を継続している。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3単	13,517	11.6%	1,686	1,713	22.8%	1,084	376.15
2022/3単	13,885	2.7%	1,818	1,833	7.0%	1,145	74.89
2023/3単	15,416	11.0%	777	791	-56.8%	641	37.02
2024/3単	17,527	13.7%	2,593	2,629	232.4%	1,718	98.41
2025/3単予	18,970	8.2%	2,790	2,850	8.4%	1,850	105.66

## ダイキン工業〈6367〉プライム 省エネ性能の高いエアコンへの関心高まる

### ■24年度のエアコン生産は過去最多を計画

7月3日、24年度の家庭用ルームエアコンの生産計画を公表したと報じられた。世界全体で過去最多の生産数となる23年度比15%増の約883万台としたようだ。また、インドで100万台以上を生産するなど、新興国でのエアコン需要の高まりに対応する方針。連日で猛暑が続いているほか、40℃近く気温が上昇するなか、需要の回復が見込まれる。また、電気代の高騰により省エネ性能の高いエアコンへの関心も高まっていることも追い風となろう。その他、サントリーホールディングスなどと、ダブル連結トラックを活用した異業種製品輸送の往復輸送の取り組みを開始した。労働環境の改善が見込まれるほか、CO2排出量は10トントラック2台での輸送時と比べ年間約35%削減できる見込み。

### ■目標株価は5月高値水準

株価は5月10日に付けた25325円をピークに調整を継続して

売買単位	100 株
7/5 終値	22945 円
目標株価	25300 円
業種	機械

いるが、75日線を支持線にリバウンドを見せてきており、前週には200日、25日線を突破してきた。週足では52週線に上値を抑えられているものの、下値の堅さがみられてきており、抵抗線突破を想定したリバウンド狙いのスタンスに向かわせそうだ。目標株価は5月高値水準となる25300円とする。

### ★リスク要因

中国メーカーとの競争激化。

6367:日足

75日線を支持線としたリバウンド。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3連	2,493,386	-2.2%	238,623	240,248	-10.7%	156,249	533.97
2022/3連	3,109,106	24.7%	316,350	327,496	36.3%	217,709	743.88
2023/3連	3,981,578	28.1%	377,032	366,245	11.8%	257,754	880.59
2024/3連	4,395,317	10.4%	392,137	354,492	-3.2%	260,311	889.22
2025/3連予	4,540,000	3.3%	425,000	390,000	10.0%	267,000	912.01

## ホシザキ〈6465〉プライム

### 業務用厨房機器メーカー、遠隔操作による飲食店省力化に注力援

#### ■第1四半期営業利益は前年同期比29.1%増

業務用厨房機器メーカー。23年12月期売上高は全自動製氷機が全体の21%、冷凍冷蔵庫が26%、食器洗浄機6%、生ビールやアイスコーなどのディスペンサー8%などとなっている。ガス機器や厨房用シンクなど他社仕入商品も扱う。主力製品群は国内トップシェアを獲得しており、特に全自動製氷機は単独ブランド別で世界シェアトップレベル。地域別では国内54%、米州26%、欧州20%。24年12月期第1四半期(24年1-3月)は、売上高1063.40億円(前年同期比17.4%増)、営業利益は151.62億円(同29.1%増)で着地。国内はインバウンドの回復等が追い風となり、また、海外はインドなどアジアが伸びたほか、欧州の新規連結子会社も収益寄与した。

#### ■厨房機器は遠隔操作のステージに

24年12月期は、売上高4100億円(前期比9.8%増)、営業利益440億円(同1.1%増)を見込む。国内ではコロナ禍後の飲食

売買単位	100株
7/5終値	4945円
目標株価	6294円
業種	機械

店開拓、海外では新規連結子会社の寄与などを見込む。中期的に注力するのが飲食店のDX支援だ。業務用冷蔵庫などを遠隔監視し、温度管理などを省力化する。日本経済新聞によると、同社社長は「5年で1万台分の契約を目指す」としている。まずは年初来高値6294円を目標株価としたい。

#### ★リスク要因

金利上昇による飲食店の設備投資意欲減退など。

#### 6465:日足

好業績だが株価は高値から20%超下落。下値の堅い展開で、そろそろ買い場探しか。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/12連	238,314	-17.9%	18,447	17,420	-49.1%	11,442	158.00
2021/12連	274,419	15.2%	24,931	31,165	78.9%	21,679	299.35
2022/12連	321,338	17.1%	27,378	37,226	19.4%	23,977	165.52
2023/12連	373,563	16.3%	43,520	50,322	35.2%	32,835	226.66
2024/12連予	410,000	9.8%	44,000	46,000	-8.6%	33,000	227.79

## 日本マイクロニクス〈6871〉プライム

### 半導体検査用「プローブカード」が主力、最先端メモリ向けが拡大

#### ■生成AI向け半導体の需要増が追い風

半導体製造工程で、ウェーハの検査に使用される「プローブカード」が主力製品。半導体チップの電極にプローブカードの針を接触させ、試験装置(テスト)に信号を送る役目を担う。また、「半導体テスト」や、半導体製造の最終工程での検査に用いる「テストソケット」も手掛ける。24年12月期第1四半期(24年1-3月期)は、売上高 117.94 億円(前年同期比 20.7%増)、営業利益は 25.08 億円(同27.1%増)で着地。生成AI向け半導体の需要増によるメモリ向けプローブカードを効率よく出荷することができた。

#### ■大幅増収増益を計画

同社は2四半期先までの業績予想を開示している。第3四半期累計期間(24年1-9月)は、売上高 400.00 億円(前年同期比 56.7%増)、営業利益 88.00 億円(同3.3倍)を見込む。メモリ向けプローブカードの高い需要が継続すると想定し、大幅増収増益

売買単位	100 株
7/5 終値	6950 円
目標株価	8940 円
業種	電気機器

を計画している。特に、生成 AI 向けなどに需要が急拡大している、最先端メモリである HBM(High Bandwidth Memory)は、従来の DRAM に比べテスト工程が増える傾向にあり、中期的にも同社製品への需要を支えそうだ。株価はやや上値の重い展開だが業績は好調だ。年初来高値 8940 円を目標株価としたい。

#### ★リスク要因

半導体市況の動向など。

6871:日足

利益確定売りは一巡から反転・上昇相場に入ったか。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2020/12連	40,130	43.6%	2,775	3,033	86.5%	3,111	81.54
2021/12連	39,998	-0.3%	8,243	8,688	186.4%	8,237	215.14
2022/12連	44,321	10.8%	9,225	10,423	20.0%	7,530	195.69
2023/12連	38,292	-13.6%	5,312	5,675	-45.6%	4,127	106.99
2024/12連予	-	-	-	-	-	-	-

## ASNOVA 〈9223〉 グロース

### 大手レンタル会社とのすみ分けによりシェア拡大

#### ■くさび式足場レンタルサービスを展開

22年4月に名証ネクスト市場へ上場、翌年12月に東証グロースへ上場した。同社は低中層マンションや住宅で多く使用される「くさび式足場」を中心に、足場施工業者などへ仮設機材をレンタルしている。メイン顧客は売上規模1億～3億円の足場施工業者。大手レンタル会社と比較しても足場をレンタルする現場が異なり、すみ分けができています。

売買単位	100 株
7/5 終値	600 円
目標株価	800 円
業種	サービス業

#### ■今期も売上高・営業利益過去最高達成をねらう

中古住宅数増加により、足場レンタルのニーズは拡大基調にあり、同社も売上拡大に向け拠点網と顧客数拡大をねらっている。24年3月期末時点で36拠点となっているが、27年3月期末時点には57拠点まで拡大させる計画であるほか、24年3月期が過去最高の新規顧客数獲得に至ったことをふまえて、今期以降の新規顧客数獲得目標を400～500社へ引き上げている。また、海外

展開として、中長期的視点ではベトナムでの市場シェア No.1 に向けた基盤強化をはかっている。25年3月期は、売上高42.05億円(前期比11.1%増)、営業利益4.32億円(同23.7%増)と前期に続き過去最高達成をねらう。株価は23年4月の高値更新となる800円を目標とする。

#### ★リスク要因

認知拡大が思うように進まないことなど。

#### 9223: 日足

25日線をサポートに上昇局面入りとなるか。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2021/3単	2,241	-17.7%	-145	11	-96.1%	15	11.68
2022/3単	2,679	19.5%	166	287	2509.1%	204	150.14
2023/3連	3,141	-	187	212	-	144	47.14
2024/3連	3,785	20.5%	349	324	52.8%	210	33.98
2025/3連予	4,205	11.1%	432	402	24.2%	220	17.70

## ファーストリテイリング プライム<9983>/判定基準日月末に控え、本格上昇場面は先

週半ばに上昇。2日に6月の月次動向を発表している。既存店売上高は前年同月比14.9%増となり、3カ月連続の増収、2カ月ぶりの2ケタ増となる。客数が同8.1%増加したほか、客単価も同6.3%上昇した。気温とキャンペーンがマッチして夏物商品の販売が好調だったほか、トレンドを捉えた新商品の販売も好調に推移した。

気温上昇効果を背景に、他の衣料品専門店各社も6月の販売は伸長するところが多くなっていたが、日経平均連動株として、指数の上昇効果も加わり、素直に販売好調が評価される形に。7月11日に第3四半期の決算発表を予定。通期コンセンサスは会社計画に近い水準であるため、想定通りの決算なら安心感は強まりやすい。ただ、7月末に日経平均ウェイトキャップ判定基準日を迎えるため、ここからの上昇は先行き需給懸念につながる。本格的な上昇場面は先となる。



## 三越伊勢丹ホールディングス プライム<3099>/高値更新に伴う買い戻しが拡大も

週末にかけて大幅続伸し、6月12日の高値を更新している。SMBC日興証券では投資判断「1」を継続し、目標株価を2700円から3800円に引き上げ。前期第4四半期の業績上振れ、免税売上前提の引き上げなどにより、業績予想を上方修正しているもよう。25年3月期営業利益は571億円から787億円に引き上げ、620億円程度の市場予想も大幅に上回るとみている。また、26年3月期も582億円から812億円に上方修正のようだ。

先週前半は、Jフロントや高島屋が相次いで業績予想を上方修正しており、同社など他の百貨店株の連想感にもつながった。先週の株高で今後の決算に対するハードルは高まったとみられるが、足元では需給妙味も強まっており、短期的には高値更新に伴う買い戻しの動きが優勢となる。なお、次のカタリストは17日の6月訪日客数発表となる。



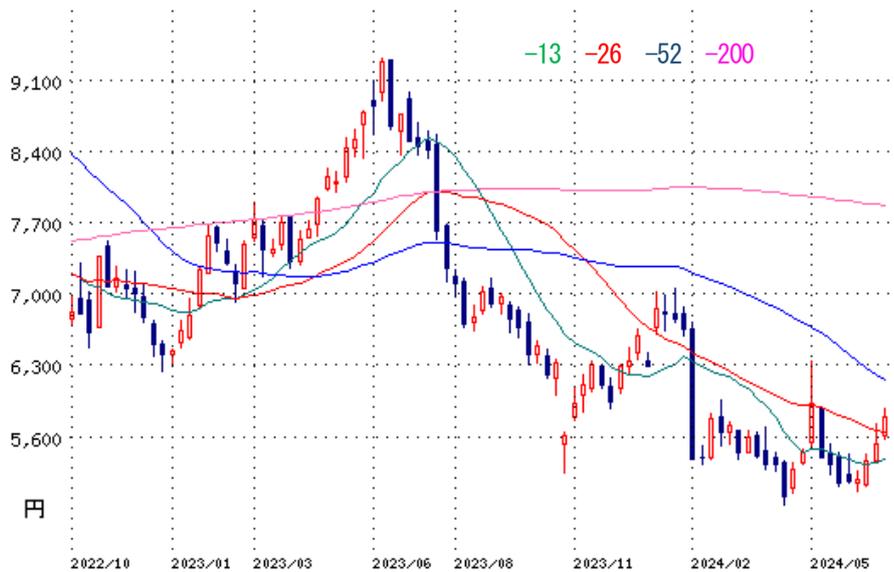
## ミニストップ プライム<9946>

日足ベースの一目均衡表。先週も三役好転下の買い手優位パターンを維持。週末のローソク足は上ヒゲがなく、下ヒゲ1円でほぼ「陽の丸坊主」を描いて強い買い意欲を窺わせた。転換線が3日連続で上昇したことに加え、基準線も上向いており、上昇トレンド継続が予想される。6月19日の年初来高値より上では特段の節目は見当たらず、節目の2000円に向けて歩を進める展開が期待できよう。



## オムロン プライム<6645>

週足ベースのローソク足。6月2週に5052円まで押されて4月の年初来安値に対する2番底を見た後は反転を開始。先週は4本連続陽線を並べて高値と安値も切り上げ、赤三兵を示現。終値は26週移動平均線を上回り、地合いの改善を窺わせた。26週線下には上昇2週目の13週線があって反転トレンド継続を示唆しており、節目の6000円や52週線（先週末6159.1円）を超えて上値を伸ばす展開が予想される。



## テーマ別分析:夏の旅行シーズンとパリ五輪控え旅行予約関連に注目

## ■JTBの海外旅行の予約人数状況は7月3日時点で前年比30%増

夏の旅行シーズンが到来することから、旅行予約関連テーマに関心が集まる期待がある。旅行代理店最大手のJTBが7月4日に発表した2024年夏休み(7月15日～8月31日)の旅行動向調査によると、国内旅行者数は前年よりやや減少を見込むものの、旅行費用は前年並みという。一方、海外旅行者数は「パリ五輪」の開催効果もあり増加し、JTBの海外旅行の7月3日時点の予約人数状況は前年比30%増となっている。

相場テーマ的にはやや話題先行型ながら、エイチ・アイ・エス<9603>が2024年10月期第2四半期決算発表(6月14日)と同時に今期2度目となる通期業績予想の上方修正を発表している。KNT-CTホールディングス<9726>が5月以降下値を切り上げているほか、インバウンド需要を取り込んでいる関連企業も多い。パリ五輪の7月26日開幕をきっかけに、旅行予約関連に見直し機運が到来する可能性がある。

## ■主な「旅行予約」関連銘柄

コード	銘柄	市場	7/5 終値 (円)	概要
2371	カカクコム	プライム	2094.5	「価格.com 旅行・トラベル」をサイト上で展開
2440	ぐるなび	プライム	314	グルメにこだわる宿泊予約サイト「ぐるなびトラベル」を運営
2477	手間いらず	スタンダード	3380	宿泊施設の予約管理システム「TEMAIRAZU」を提供
3099	三越伊勢丹HD	プライム	3528	過去上場していたニッコウトラベルを完全子会社化し事業展開
3926	オープンドア	プライム	643	格安旅行商品の日本最大級比較サイト「トラベルコ」を運営
4689	LINEヤフー	プライム	399.5	宿泊予約サイトなどを運営の「一休」が旅行事業の中核
4755	楽天グループ	プライム	898.3	国内最大級の宿泊予約サイト「楽天トラベル」を運営
6030	アドベンチャー	グロース	4640	航空券の比較予約サイト「スカイチケット」を運営
6098	リクルートHD	プライム	9093	リクルートライフスタイルが旅行予約サイト「じゃらんnet」を運営
6191	エアトリ	プライム	1334	格安航空券・ホテルの比較サイト「エアトリ」を運営
6561	HANATOUR JAPAN	グロース	1555	B2B向けホテル・旅行商材サイトを運営、訪日観光客向けに特徴
7048	ベルトラ	グロース	412	現地体験型オプションツアーの専門予約サイトを展開
8005	スクロール	プライム	1057	バス旅行中心の企画ツアー会社「トラベックスツアーズ」が子会社
8908	毎日コムネット	スタンダード	751	学生向けマンション事業者かし学生の合宿旅行を手掛ける
9008	京王電鉄	プライム	3677	グループの京王観光はバス旅に強みを持つ旅行代理店準大手
9020	東日本旅客鉄道	プライム	2633.5	JR東海<9022>とともに旅行代理店最大手のJTBの大株主
9042	阪急阪神HD	プライム	4263	広告代理店準大手の老舗「阪急交通社」がグループ企業
9201	日本航空	プライム	2566.5	オンライン専用JALパックは航空券と宿泊パッケージに強み
9416	ビジョン	プライム	1291	インバウンド向け事業とグランピングサイトを運営
9603	エイチ・アイ・エス	プライム	1524	格安航空券販売で最大手で個人に強い
9726	KNT-CTHD	スタンダード	1352	「クラブツーリズム」は同社から分離独立したグループ企業

出所:フィスコ作成

## 高値圏にある好需給銘柄は警戒イベント通過で一段高の期待も

### ■日経平均、TOPIXともに史上最高値更新

フランス総選挙、並びに、ETF 分配金捻出の為の売り需要発生など、足元では相場の警戒材料とされてきたが、今週はこうしたイベントも通過することになる。日経平均、TOPIXともに足元で最高値更新を達成しているが、懸念イベント一巡によって、一段と買い安心感が高まっていく可能性もあろう。株価が高値圏にあり（過去120日高値水準にあり、日経平均が前回高値を付けた3月22日からの上昇率が高い）、かつ、信用取組動向が良好な銘柄などには、買い戻しの動きが急がれることでの一段高も展望できよう。

スクリーニング要件としては、①信用倍率が1.2倍以下、②信用売残高が20万株以上、③過去120日高値と現在株価の乖離率が5%未満、④3月22日終値比株価上昇率が10%以上。

### ■高値圏にある信用好取組銘柄

コード	銘柄	市場	7/5株価 (円)	時価総額 (億円)	信用倍率 (倍)	株価騰落率 (%)	株価乖離率 (%)	予想 1株利益 (円)
2809	キューピー	プライム	3,400.0	4,811.0	0.15	22.48	2.79	148.92
3099	三越伊勢丹HD	プライム	3,528.0	13,998.8	1.19	42.37	0.79	141.21
3198	SFPHD	プライム	2,163.0	557.8	0.15	11.61	1.53	65.82
3659	ネクソン	プライム	3,065.0	26,539.0	0.81	14.90	1.40	-
6098	リクルートHD	プライム	9,093.0	154,213.6	0.64	34.83	0.00	-
7453	良品計画	プライム	2,703.5	7,590.9	1.05	13.09	2.96	124.83
7599	IDOM	プライム	1,414.0	1,511.4	0.86	34.54	3.47	135.45
7936	アシックス	プライム	2,497.5	18,968.1	1.04	43.06	0.60	49.35
8163	SRSHD	プライム	1,316.0	545.8	0.09	11.81	4.71	-
7807	アイザワ証券グループ	プライム	2,780.0	1,321.2	0.18	136.80	4.93	-
9072	ニッコンHD	プライム	3,604.0	2,369.3	0.17	17.13	4.30	269.57
9766	コナミグループ	プライム	11,740.0	16,846.9	0.16	13.16	1.36	438.93
9900	サガミHD	プライム	1,747.0	529.4	0.16	11.34	0.06	33.13

(注) 株価騰落率は3/22比

(注) 株価乖離率は過去120日高値と現在株価乖離率

出所：フィスコアプリより作成

## 東証の TOPIX 浮動株比率定期見直しで影響が見込まれる銘柄

## ■1~3 月期銘柄のうち FFW 上昇は 426 銘柄、低下は 493 銘柄と予想

東証は10月7日にTOPIX FFW（浮動株比率）の定期見直し結果公表を予定している。SMBC日興証券では、1~3月期本決算銘柄の有価証券報告書が公開されて間もない現在のタイミングで、FFWの定期見直し結果を予想している。また、現時点ではまだ、リバランスの影響が株価に十分に織り込まれていない可能性を指摘している。

同証券では、10月の定期見直しでパッシブファンドによるリバランスは10月30日引けと見込み、今回定期見直しの対象となる2024年1~3月期本決算1574銘柄のうち、段階的のウェイト低減の移行係数も考慮すると、919銘柄のFFW変動を予想している。そのうち上昇が見込まれるのは426銘柄、低下が見込まれるのは493銘柄と推察している。下表ではそのうち上昇が見込まれる一部の銘柄について、掲載している。

## 「定期見直しで株価にポジティブな影響が見込まれる銘柄」(SMBC日興証券)

コード	銘柄名	本決算 期末	株価 (6/28) 円	時価総額 (十億円)	25日平均 売買代金 (百万円)	リバランス前 予想FFW	リバランス後 予想FFW	予想フロー (百万円)	予想フロー (千株)	予想 インパクト 日数
8306	三菱UFJ	202403	1,729.0	21,332	101,107	0.65000	0.70000	172,663	99,863	1.7
6902	デンソー	202403	2,498.0	7,873	15,761	0.35000	0.45000	158,502	63,451	10.1
6501	日立	202403	3,601.0	16,696	54,853	0.69990	0.75000	132,044	36,669	2.4
6098	リクルート	202403	8,607.0	14,200	35,583	0.60000	0.65000	117,886	13,697	3.3
4568	第一三共	202403	5,524.0	10,755	24,423	0.60000	0.65000	89,288	16,164	3.7
4543	テルモ	202403	2,653.0	3,955	8,898	0.50000	0.60000	77,156	29,082	8.7
4661	OLC	202403	4,482.0	8,150	14,130	0.40000	0.45000	74,428	16,606	5.3
6367	ダイキン	202403	22,370.0	6,557	24,736	0.55000	0.60000	55,795	2,494	2.3
7011	三菱重	202403	1,723.0	5,813	54,793	0.70000	0.75000	45,843	26,607	0.8
3382	セブン&アイ	202402	1,960.0	5,105	10,586	0.55000	0.60000	43,439	22,163	4.1
6857	アドテスト	202403	6,425.0	4,922	58,242	0.50000	0.55000	42,908	6,678	0.7
4901	富士フイルム	202403	3,762.0	4,679	11,765	0.60000	0.65000	38,848	10,326	3.3
8697	日本取引所	202403	3,752.0	1,960	5,989	0.65000	0.75000	37,011	9,864	6.2
6301	コマツ	202403	4,671.0	4,549	12,976	0.65000	0.70000	36,818	7,882	2.8
6526	ソシオネクス	202403	3,809.0	682	70,709	0.54990	0.80000	35,254	9,256	0.5
8591	オリックス	202403	3,552.0	4,316	9,998	0.65000	0.70000	34,931	9,834	3.5
6762	TDK	202403	9,865.0	3,835	20,957	0.55000	0.60000	32,635	3,308	1.6
9022	JR東海	202403	3,473.0	3,577	8,842	0.50000	0.55000	31,182	8,978	3.5
8015	豊田通商	202403	3,132.0	3,327	8,537	0.35000	0.40000	31,070	9,920	3.6
6701	NEC	202403	13,245.0	3,614	12,444	0.65000	0.70000	29,251	2,208	2.4
7735	スクリン	202403	14,500.0	1,473	21,876	0.45000	0.55000	29,044	2,003	1.3
4689	ラインヤフー	202403	388.9	2,970	5,811	0.25000	0.30000	28,973	74,499	5.0
8630	SOMPO	202403	3,435.0	3,402	12,414	0.60000	0.65000	28,245	8,223	2.3
5713	住友鉱	202403	4,878.0	1,419	7,280	0.55000	0.65000	27,381	5,613	3.8
8267	イオン	202402	3,439.0	2,999	5,285	0.55000	0.60000	25,515	7,419	4.8

注:データは2024年6月28日時点。定期見直し対象銘柄(2024年1~3月本決算銘柄)のうちFFWの上昇が見込まれる銘柄を、予想フロー金額で降順に掲載。予想FFWは移行係数を乗じた後の値。パッシブファンドのリバランスによる予想フローは、パッシブファンドが指数用株式数の22%を保有していると仮定して計算。予想インパクトは、予想パッシブフローを25日平均売買代金で除して計算。

出所:QUICKよりSMBC日興証券作成

※紙面スペースの都合上、掲載可能な銘柄数に限られています。

## 相場上昇の中で買い方が利益確定

6月28日時点の2市場信用残高は、買い残高が1584億円減の4兆7533億円、売り残高が369億円減の7248億円。買い残高が4週間ぶりに減少、売り残高も3週間ぶりの減少となった。また、買い方の評価損益率は-6.79%から-5.12%、売り方の評価損益率は+5.59%から+6.55%に。なお、信用倍率は6.45倍から6.56倍。

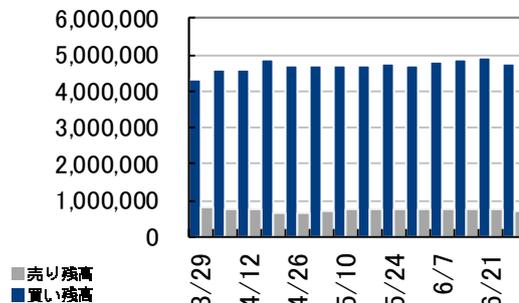
この週(6月24日-28日)の日経平均は前週末終値比986.61円高の39583.08円。プライム市場の売買代金はさほど増加していないが、先物主導の相場展開のなか、日経平均は5月、6月の戻り高値を上回り、4月以来となる39700円台まで一時上昇した。日本株を積極的に売買する手掛かり材料は観測されていないが、円安ドル高の進行で自動車株など海外売上高比率が高い銘柄がしつかり。また、長期金利の指標となる新発10年国債利回りが一時1.085%まで上昇したことなどが影響し金融株も上昇したこと、日経平均は足元の値抵抗水準だった39300円水準を突破、レンジ上限を上回ったことで、先物の買戻しなども膨らみ日経平均は上げ幅を広げたとの観測。

個別では、アイシン<7259>の信用倍率は1.24倍と、前週の27.29倍から一気に組みに厚みが増した。デンソー<6902>、豊田織<6201>、トヨタ<7203>の3社は同社株を売り出すと発表。需給悪化緩和のため1000億円を上限とした自社株買いを発表したが、売却は合計で発行済み株式の14%に当たるとして、ヘッジ対応の新規売りが積み上がった。また、三菱UFJ<8306>も組みが改善。長期金利の上昇傾向が続くなか、日銀による政策変更への思惑などを手掛かりに年初来高値を更新しており、買い方の利益確定に対して新規売りが積み上がった。同社の他、みずほ<8411>、三井住友<8316>、りそなHD<8306>、MS&AD<8725>、東京海上<8766>、第一生命<8750>など金融セクターに組みの改善が目立っていた。

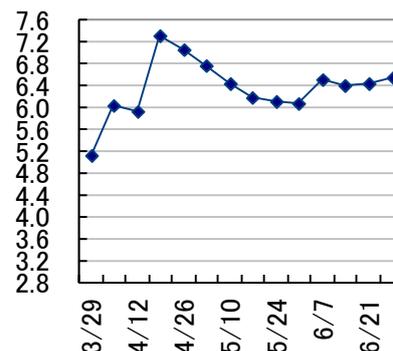
### 組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	7/5終値(円)	信用買残(6/28:株)	信用売残(6/28:株)	信用倍率(6/28:倍)	信用買残(6/21:株)	信用売残(6/21:株)	信用倍率(6/21:倍)
7259	プライム	アイシン	5,376.0	1,209,000	977,300	1.24	747,700	27,400	27.29
8306	プライム	三菱UFJ	1,816.5	47,512,300	7,676,200	6.19	72,121,900	2,621,200	27.51
7014	スタンダード	名村造	2,515.0	5,590,700	4,721,600	1.18	8,550,300	1,805,900	4.73
8411	プライム	みずほ	3,510.0	8,796,300	1,246,900	7.05	11,593,200	601,200	19.28
7013	プライム	IHI	5,616.0	1,631,800	959,800	1.70	1,844,900	411,800	4.48
8725	プライム	MS&AD	3,841.0	3,590,400	266,700	13.46	5,064,500	146,700	34.52
6758	プライム	ソニーG	13,985.0	1,884,600	411,400	4.58	2,388,100	216,600	11.03
6857	プライム	アドバンテ	6,631.0	9,295,500	3,180,100	2.92	11,686,900	1,668,100	7.01
8001	プライム	伊藤忠	8,101.0	858,400	332,100	2.58	1,081,800	203,900	5.31
8766	プライム	東京海上	6,243.0	1,642,300	404,100	4.06	1,887,700	237,100	7.96
8316	プライム	三井住友	11,165.0	5,141,800	770,500	6.67	6,619,100	515,400	12.84
8750	プライム	第一生命	4,669.0	1,593,500	308,400	5.17	1,873,900	190,200	9.85
2811	プライム	カゴメ	3,370.0	587,400	1,977,900	0.30	955,300	1,686,100	0.57
8308	プライム	りそなHD	1,062.5	4,097,000	1,088,100	3.77	5,688,600	810,600	7.02
8200	プライム	リングハット	2,293.0	87,800	608,200	0.14	76,800	295,900	0.26

信用残高 金額ベース 単位:百万円



信用倍率 (倍)



## コラム:インドネシアが通貨安是正に本腰

インドネシア通貨ルピアの安値圏でのみみ合いが続いています。中銀は介入や利上げで防戦一方。5月に発足した新政権は経済協力開発機構(OECD)加盟により、通貨安是正の長期的課題に取り組む構えですが、外交の壁が立ちはだかっています。

アメリカのインフレ高止まりを受けたドル選好地合いは、アジア通貨安をもたらしています。インドネシアルピアも年初から値を下げ続け、2020年のコロナ禍ピークに付けた過去最安値の1ドル=16400ルピアに接近中です。インドネシア中銀は利上げや為替介入に踏み切らざるを得ない状況。ただ、米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げ時期は後退し、ルピア相場は不透明感を強めています。

インドネシアは1997年のアジア通貨危機に見舞われた際、透明性の欠如や政策の不確実性が投資家の不信を招き、通貨の急落を引き起こしました。同国は当時の混乱を教訓に、経済の多角化と外貨準備の拡充に邁進。ただ、投資家の信頼を回復するには安定した投資環境を提供する必要があります。高支持率のまま任期切れを迎えたジョコ前大統領の路線を受け継ぐプラボウォ新大統領にとっても、通貨安是正が当面の重要課題になります。

OECDとインドネシアは今年2月、加盟に関する協議を開始。審査結果の発表は4-5年後とみられ、正式加盟なら東南アジアからは初めて。そのメリットとして、国際的な信頼性の向上で経済政策の透明性とガバナンスが強化されるほか、多くの国との自由貿易協定の恩恵が見込まれます。構造改革により金融市場の安定化やインフラ投資が促進され、長期的な成長とともにルピアの価値が増すと期待されます。

一方で、ルピアへのリスクも伴います。OECD加盟による相対的な期待が低下すれば、ルピアの急落を引き起こすかもしれません。また、加盟プロセスを通じた改革は、短期的には国内的に負担になるケースも考えられます。加速度的な経済成長も、構造改革や規制により一時的な鈍化が想定されるでしょう。それがルピアの価値にネガティブな影響を与える可能性もあります。

注目されるのは、イスラエルとの関係です。インドネシアはイスラエルを国家として公式に承認しておらず、イスラエルはインドネシアのOECD加盟に反対の立場。宗教上の違いから交渉が難航し、遅延は避けられない見通しです。インドネシアは他の加盟国に対する外交努力を強化し、多国間交渉を通じて支持を積み上げていくのが正攻法となるでしょう。慢性的なルピア安からの脱却は容易ではなさそうです。

※あくまでも筆者の個人的な見解であり、弊社の見解を代表するものではありません。

1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5-7
2	レーティング	格上げ・買い推奨	8
		格下げ・売り推奨	9
3	投資主体別売買動向	総括コメント	10
		市場別データ	11
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	12
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄 (プライム)	13
		雲下抜け銘柄 (プライム)	14

7月8日～7月12日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
7月8日	月	08:30	毎月勤労統計(5月)
		08:50	国際収支(経常収支)(5月)
		08:50	貸出動向 銀行計(6月)
		08:50	銀行貸出動向(含信金前年比)(6月)
		14:00	景気ウォッチャー調査 現状判断(6月)
		14:00	景気ウォッチャー調査 先行き判断(6月)
		15:00	独・貿易収支(5月)
		20:00	ブ・FGVインフレ率(IGP-DI)(6月)
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(先週)
		20:25	ブ・週次景気動向調査
		27:00	ブ・貿易収支(先週)
		28:00	米・消費者信用残高(5月)
			日銀支店長会議
			地域経済報告(さくらレポート)(7月、日本銀行)
			各地域からみた景気の現状(支店長会議における報告)
		7月9日	火
15:00	工作機械受注(6月)		
15:45	「債券市場参加者会合」(銀行)(日本銀行)		
17:30	「債券市場参加者会合」(証券)(日本銀行)		
	中・資金調達総額(6月、15日までに)		
	中・マネーサプライ(6月、15日までに)		
	中・元建て新規貸出残高(6月、15日までに)		
	米・パウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長が上院銀行委員会で証言		
	米・北大西洋条約機構(NATO)首脳会議(11日まで)		
	米・3年債入札		
7月10日	水	08:50	国内企業物価指数(6月)
		10:00	アラブ経済フォーラム
		10:10	国債買入れオペ(残存1-3年、残存3-5年、残存5-10年、残存25年超)(日本銀行)
		10:30	中・消費者物価指数(6月)
		10:30	中・生産者物価指数(6月)
		11:00	NZ・ニュージーランド準備銀行(中央銀行)が政策金利発表
		16:30	「債券市場参加者会合」(バイサイド)(日本銀行)
		21:00	ブ・拡大消費者物価指数(IPCA)(6月)
		23:00	米・卸売在庫(5月)
			米・パウエルFRB議長が下院金融委員会で証言
			米・シカゴ連銀総裁とボウマンFRB理事がイベント開会のあいさつ
			石油輸出国機構(OPEC)月報
			米・10年債入札

7月8日~7月12日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
7月11日	木	08:50	コア機械受注(5月)
		08:50	対外・対内証券投資(先週)
		11:00	東京オフィス空室率(6月)
		15:00	英・鉱工業生産指数(5月)
		15:00	英・商品貿易収支(5月)
		15:00	独・CPI(6月)
		21:00	ブ・小売売上高(5月)
		21:30	米・新規失業保険申請件数(先週)
		21:30	米・消費者物価コア指数(6月)
			韓・中央銀行が政策金利発表
			米・アトランタ連銀総裁が講演
			米・セントルイス連銀総裁が質疑応答に参加
			米・30年債入札
		7月12日	金
13:30	設備稼働率(5月)		
13:30	「生活意識に関するアンケート調査」(第98回)の結果(日本銀行)		
21:00	印・消費者物価指数(6月)		
21:00	印・鉱工業生産(5月)		
21:00	ブ・IBGEサービス部門売上高(5月)		
21:30	米・生産者物価コア指数(6月)		
23:00	米・ミンガン大学消費者信頼感指数速報(7月)		
	中・貿易収支(6月)		
	印・外貨準備高		

**■(日)5月経常収支****7月8日(月)午前8時50分発表予定**

(予想は、+2兆3935億円) 参考となる4月実績は+2兆505億円。4月としては過去最大の黒字額となった。一次所得収支が前年同月比+8080億円となったことが要因。5月については4月並みの貿易赤字が続くものの、第一次所得収支で高水準の黒字が予想されるため、経常黒字額は4月実績を上回る可能性がある。

**■(中)6月消費者物価指数****7月10日(水)午前10時30分発表予定**

(予想は、前年比+0.4%) 参考となる5月実績は前年比+0.3%。デフレ圧力はやや弱くなっているものの、内需は堅調ではないため、物価上昇圧力がただちに高まる可能性は低いとみられる。

**■(米)6月消費者物価コア指数****7月11日(木)午後9時30分発表予定**

(予想は、前年比+3.4%) 参考となる5月実績は前年比+3.4%。小売業者による値引きや一部自動車販売価格の引き下げなどが報告された。財のインフレ率は緩やかに低下しており、6月のコアインフレ率は5月実績と同水準となる可能性がある。

**■(米)7月ミシガン大学消費者信頼感指数速報****7月12日(金)午後11時発表予定**

(予想は、67.0) 参考となる6月実績は68.2。また、CB6月実績は100.4と悪化した。インフレ緩和の兆候は出ているものの、7月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値が改善する可能性は低いとみられる。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
7月8日	2408	KG情報	スタンダード	-	7月11日	7581	サイゼリヤ	プライム	-
	3141	ウエルシアホールディングス	プライム	-		7673	ダイコー通産	スタンダード	-
	3148	クワイエットSDホールディングス	プライム	-		8166	タカキュー	スタンダード	-
	3236	プロバスト	スタンダード	-		8260	井筒屋	スタンダード	-
	3280	エストラスト	スタンダード	-		9560	プログリット	グロース	-
	3353	メディカル光グループ	スタンダード	-		9720	ホテル、ニューグランド	スタンダード	-
	4825	ウェザーニューズ	プライム	-		9846	天満屋ストア	スタンダード	-
	7811	中本パックス	スタンダード	-		9861	吉野家ホールディングス	プライム	-
	8194	ライフコボレーション	プライム	-		9946	ミニストップ	プライム	-
	8278	フジ	プライム	-		9974	ベルク	プライム	-
7月9日	9418	U-NEXT HD	プライム	-	1419	タマホーム	プライム	-	
	9558	ジャパニクス	グロース	-	2303	ドーン	スタンダード	-	
	2379	ディップ	プライム	-	2305	スタジオアリス	プライム	-	
	2668	タビオ	スタンダード	-	2337	いちご	プライム	-	
	2792	ハニースホールディングス	プライム	-	2341	アルバイトタイムス	スタンダード	-	
	2882	イトアンドホールディングス	プライム	-	2698	キャンドウ	スタンダード	-	
	2918	わらべや日洋ホールディングス	プライム	-	2791	大黒天物産	プライム	-	
	3222	ユナイテッド・スーパーマーケット・HD	スタンダード	-	3030	ハブ	スタンダード	-	
	3454	ファーストブラザーズ	スタンダード	-	3065	ライフフーズ	スタンダード	-	
	4173	WACUL	グロース	-	3080	ジェーソン	スタンダード	-	
	4735	京進	スタンダード	-	3083	シーズメン	スタンダード	-	
	4763	クリーク・アンド・リバー社	プライム	-	3160	大光	スタンダード	-	
	6083	ERIホールディングス	スタンダード	-	3267	フィル・カンパニー	スタンダード	-	
	6255	エヌ・ピー・シー	グロース	-	3297	東武住販	スタンダード	-	
	6496	中北製作所	スタンダード	-	3382	セブン&アイホールディングス	プライム	-	
	7085	カーブスホールディングス	プライム	-	3479	ティーケーピー	グロース	-	
	7445	ライトオン	スタンダード	-	3490	アズ企画設計	スタンダード	-	
	7514	ヒマラヤ	スタンダード	-	3907	シリコンスタジオ	グロース	-	
	7921	TAKARA & COMPANY	プライム	-	3922	PR TIMES	プライム	-	
	9651	日本プロセス	スタンダード	-	4017	クリーマ	グロース	-	
9787	イオンデライト	プライム	-	4057	インターファクトリー	グロース	-		
9835	ジュンテンドー	スタンダード	-	4076	シイエヌエス	グロース	-		
7月10日	1376	カネコ種苗	スタンダード	-	4187	大阪有機化学工業	プライム	-	
	2157	コシダカホールディングス	プライム	-	4413	ポードルア	グロース	-	
	2338	クオンタムソリューションズ	スタンダード	-	4429	リックソフト	グロース	-	
	2653	イオン九州	スタンダード	-	4432	ウイングアーク1st	プライム	-	
	2686	ジーフット	スタンダード	-	4443	Sansan	プライム	-	
	2687	シー・ヴィ・エス・ベイエリア	スタンダード	-	4530	久光製薬	プライム	-	
	2735	ワッツ	スタンダード	-	4616	川上塗料	スタンダード	-	
	2747	北雄ラッキー	スタンダード	-	4668	明光ネットワークジャパン	プライム	-	
	2999	ホームポジション	スタンダード	-	4673	川崎地質	スタンダード	-	
	3045	カワサキ	スタンダード	-	4920	日本色材工業研究所	スタンダード	-	
	3063	ジェイグループホールディングス	グロース	-	4995	サンケイ化学	福証	-	
	3093	トレジャー・ファクトリー	プライム	-	5129	FIXER	グロース	-	
	3543	コメダホールディングス	プライム	-	5250	プライム・ストラテジー	スタンダード	-	
	3546	アレンザホールディングス	プライム	-	5574	ABEJA	グロース	-	
	3550	スタジオアタオ	グロース	-	5577	アイデミー	グロース	-	
	3697	SHIFT	プライム	-	5932	三協立山	プライム	-	
	4494	パリオセキュア	スタンダード	-	5967	TONE	スタンダード	-	
	4745	東京個別指導学院	スタンダード	-	6136	オーエスジー	プライム	-	
	5243	note	グロース	-	6217	津田駒工業	スタンダード	-	
	5982	マルゼン	スタンダード	-	6312	フロイント産業	スタンダード	-	
	6183	ベルシステム24ホールディングス	プライム	-	6323	ローツェ	プライム	-	
	6289	技研製作所	プライム	-	6474	不二越	プライム	-	
	6543	日宣	スタンダード	-	6489	前澤工業	スタンダード	-	
	6552	GameWith	スタンダード	-	6532	ベイクレント・コンサルティング	プライム	-	
	7049	識学	グロース	-	6555	MS&Consulting	スタンダード	-	
	7427	エコートレーディング	スタンダード	-	7487	小津産業	スタンダード	-	
	7501	ティムコ	スタンダード	-	7513	コジマ	プライム	-	
	7512	イオン北海道	スタンダード	-	7516	コーナン商事	プライム	-	

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
7月11日	7544	スリーエフ	スタンダード	-	7月11日	3349	コスモス薬品	プライム	-
	7601	ポブラ	スタンダード	-		3387	クリエイト・レストランツ・ホールディングス	プライム	-
	7713	シグマ光機	スタンダード	-		3440	日創プロニティ	スタンダード	-
	7818	トランザクション	プライム	-		3501	住江織物	プライム	-
	7888	三光合成	プライム	-		3536	アクサスホールディングス	スタンダード	-
	8008	ヨンドシーホールディングス	プライム	-		3541	農業総合研究所	グロース	-
	8143	ラビース	スタンダード	-		3557	ユナイテッド&コレクティブ	グロース	-
	8181	東天紅	スタンダード	-		3558	ジェイドグループ	グロース	-
	8244	近鉄百貨店	スタンダード	-		3560	ほぼ日	スタンダード	-
	8886	ウッドフレンズ	スタンダード	-		3562	No. 1	スタンダード	-
	8904	AVANTIA	スタンダード	-		3608	TSIホールディングス	プライム	-
	8905	イオンモール	プライム	-		3627	テクミラホールディングス	スタンダード	-
	9216	ビーウイズ	プライム	-		3645	メディカルネット	グロース	-
	9661	歌舞伎座	スタンダード	-		3647	ジー・スリーホールディングス	スタンダード	-
	9716	乃村工芸社	プライム	-		3678	メディアドゥ	プライム	-
	9740	セントラル警備保障	プライム	-		3791	IGポート	スタンダード	-
	9765	オオバ	プライム	-		3826	システムインテグレータ	スタンダード	-
	9876	コックス	スタンダード	-		3892	岡山製紙	スタンダード	-
	9903	カンセキ	スタンダード	-		3915	テラスカイ	プライム	-
	9983	ファーストリテイリング	プライム	-		3935	エディア	グロース	-
9993	ヤマザワ	スタンダード	-	3967	エルテス	グロース	-		
7月12日	1377	サカタのタネ	プライム	-	3987	エコモット	グロース	-	
	138A	光フードサービス	グロース	-	3990	UUUM	グロース	-	
	1401	エムビーエス	グロース	-	3991	ウオンテッドリー	グロース	-	
	1407	ウエストホールディングス	スタンダード	-	3994	マネーフォワード	プライム	-	
	1418	インターライフホールディングス	スタンダード	-	3996	サインポスト	スタンダード	-	
	1430	ファーストコーポレーション	スタンダード	-	4015	バイククラウドホールディングス	グロース	-	
	1434	JESCOホールディングス	スタンダード	-	4016	MITホールディングス	スタンダード	-	
	156A	マテリアルグループ	グロース	-	4055	ティアンドエスグループ	グロース	-	
	189A	D&Mカンパニー	グロース	-	4176	ココナラ	グロース	-	
	2153	E・Jホールディングス	プライム	-	4198	テンダ	スタンダード	-	
	2168	パソナグループ	プライム	-	4270	BeeX	グロース	-	
	2292	S Foods	プライム	-	4343	イオンファンタジー	プライム	-	
	2449	ブラップジャパン	スタンダード	-	4370	モビルス	グロース	-	
	2459	アウンコンサルティング	スタンダード	-	4397	チームスピリット	グロース	-	
	2462	ライク	プライム	-	4412	サイエンスアーツ	グロース	-	
	2471	エスプール	プライム	-	4430	東海ソフト	スタンダード	-	
	2484	出前館	スタンダード	-	4434	サーバーワークス	スタンダード	-	
	2651	ローソン	プライム	-	4439	東名	スタンダード	-	
	2669	カネ美食品	スタンダード	-	4440	ヴィッツ	スタンダード	-	
	2722	IKホールディングス	スタンダード	-	4465	ニイタカ	スタンダード	-	
	2736	フェスタリアホールディングス	スタンダード	-	4490	ピザスク	グロース	-	
	2769	ヴィレッジヴァンガードコーポレーション	スタンダード	-	4577	ダイト	プライム	-	
	2872	セイヒョー	スタンダード	-	4645	市進ホールディングス	スタンダード	-	
	2884	ヨシムラ・フード・ホールディングス	プライム	-	4714	リソー教育	プライム	-	
	2930	北の達人コーポレーション	プライム	-	4760	アルファ	スタンダード	-	
	2934	ジェイフロンティア	グロース	-	4829	日本エンタープライズ	スタンダード	-	
	3046	ジンスホールディングス	プライム	-	4885	室町ケミカル	スタンダード	-	
	3048	ビックカメラ	プライム	-	4891	ティムス	グロース	-	
	3073	DDグループ	プライム	-	5018	MORESCO	スタンダード	-	
	3087	ドトール・日レスホールディングス	プライム	-	5026	トリプルアイズ	グロース	-	
	3139	ラクト・ジャパン	プライム	-	5078	セレコーポレーション	スタンダード	-	
	3168	黒谷	スタンダード	-	5246	ELEMENTS	グロース	-	
	3174	ハビネス・アンド・ディ	スタンダード	-	5271	トーヨーアサノ	スタンダード	-	
	3177	ありがとうサービス	スタンダード	-	5341	ASAHI EITOホールディングス	スタンダード	-	
	3192	白鳩	スタンダード	-	5527	property technologies	グロース	-	
	3198	SFPホールディングス	プライム	-	5575	Globee	グロース	-	
3201	日本毛織	プライム	-	5578	ARアドバンステクノロジー	グロース	-		
3223	エスエルディー	スタンダード	-	5580	プロディライト	グロース	-		
3266	ファンダクショングループ	スタンダード	-	5595	QPS研究所	グロース	-		

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
7月12日	5817	JMACS	スタンダード	-	9168	ライズ・コンサルティング・グループ	グロース	-	
	5885	ジーデップ・アドバンス	スタンダード	-	9215	CaSy	グロース	-	
	6025	日本PCサービス	名証ネクスト	-	9238	バリュークリエーション	グロース	-	
	6044	三機サービス	スタンダード	-	9241	フューチャーリンクネットワーク	グロース	-	
	6047	Gunosy	プライム	-	9250	GRCS	グロース	-	
	6048	デザインワン・ジャパン	スタンダード	-	9252	ラストワンマイル	グロース	-	
	6058	ベクトル	プライム	-	9253	スローガン	グロース	-	
	6086	シンメンテホールディングス	グロース	-	9264	ホエック	スタンダード	-	
	6159	ミクロン精密	スタンダード	-	9265	ヤマシタヘルスケアホールディングス	スタンダード	-	
	6182	メタリアル	グロース	-	9270	バリュエンスホールディングス	グロース	-	
	6199	セラク	スタンダード	-	9326	関通	グロース	-	
	6224	JRC	グロース	-	9331	キャストター	グロース	-	
	6432	竹内製作所	プライム	-	9601	松竹	プライム	-	
	6505	東洋電機製造	スタンダード	-	9647	協和コンサルタンツ	スタンダード	-	
	6521	オキサイド	グロース	-	9778	昴	スタンダード	-	
	6522	アスタリスク	グロース	-	9812	テーオーホールディングス	スタンダード	-	
	6558	クックピズ	グロース	-	9837	モリト	プライム	-	
	6572	オーブングループ	プライム	-	9978	文教堂グループホールディングス	スタンダード	-	
	6634	ネクスグループ	スタンダード	-	9982	タキヒヨー	スタンダード	-	
	6668	アドテック プラズマ テクノロジー	スタンダード	-					
	6897	ツインバード	スタンダード	-					
	7035	and factory	スタンダード	-					
	7065	ユービーアール	スタンダード	-					
	7074	トウエンティフォーセブン	グロース	-					
	7083	AHCグループ	グロース	-					
	7086	きずなホールディングス	グロース	-					
	7219	エッチ・ケー・エス	スタンダード	-					
	7351	グッドパッチ	グロース	-					
	7352	TWOSTONE&Sons	グロース	-					
	7357	ジオコード	スタンダード	-					
	7360	オンテック	グロース	-					
	7373	アイドマ・ホールディングス	グロース	-					
	7420	佐鳥電機	プライム	-					
	7434	オータケ	スタンダード	-					
	7450	サンデー	スタンダード	-					
7453	良品計画	プライム	-						
7520	エコス	プライム	-						
7599	IDOM	プライム	-						
7603	マックハウス	スタンダード	-						
7607	進和	プライム	-						
7608	エスケイジャパン	スタンダード	-						
7689	コバ・コーポレーション	グロース	-						
7719	東京衡機	スタンダード	-						
7725	インターアクション	プライム	-						
7805	プリントネット	スタンダード	-						
7807	幸和製作所	スタンダード	-						
7847	グラフィテデザイン	スタンダード	-						
7879	ノダ	スタンダード	-						
7928	旭化学工業	スタンダード	-						
8095	アステナホールディングス	プライム	-						
8125	ワキタ	プライム	-						
8155	三益半導体工業	プライム	-						
8185	チヨダ	プライム	-						
8198	マックスパリュ東海	スタンダード	-						
8200	リンガーハット	プライム	-						
8203	MrMaxHD	プライム	-						
8237	松屋	プライム	-						
8887	クミカ	スタンダード	-						
8908	毎日コムネット	スタンダード	-						
8940	インテリックス	スタンダード	-						

## 格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
7月1日	JPモルガン	6532	ベйкаレント	NEUTRAL→OVERWEIGHT格上げ	3400→4000
	いちよし	7715	長野計器	A新規	5400
	みずほ	4188	三菱ケミカルG	中立→買い格上げ	900→1100
	大和	6113	アマダ	2新規	2000
		9204	スカイマーク	3→2格上げ	1300→930
	野村	6013	タクマ	BUY新規	2600
7月2日	ゴールドマン	6586	マキタ	中立→買い格上げ	4800→5300
	シティ	3774	IIJ	1新規	3000
	みずほ	6465	ホシザキ	買い新規	6000
	モルガン	8252	丸井G	OVERWEIGHT新規	2900
	東海東京	6758	ソニーG	OUTPERFORM新規	15600
		7283	愛三工	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	1400→1780
7月3日	大和	5480	冶金工	3→2格上げ	4300→5600
	東海東京	6027	弁護士コム	OUTPERFORM新規	6200
	野村	6436	アマノ	BUY新規	4800
7月4日	いちよし	7581	サイゼリヤ	B→A格上げ	6700→8000
	東海東京	3791	IGポート	OUTPERFORM新規	1430
7月5日	SMBC日興	1911	住友林	2→1格上げ	6000→6400
	ゴールドマン	8802	三菱地所	中立→買い格上げ	3300→3100
		8830	住友不	中立→買い格上げ	6600→6100

## 格下げ・売り推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

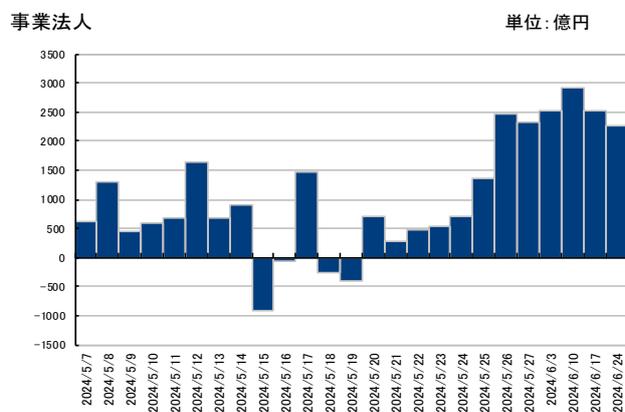
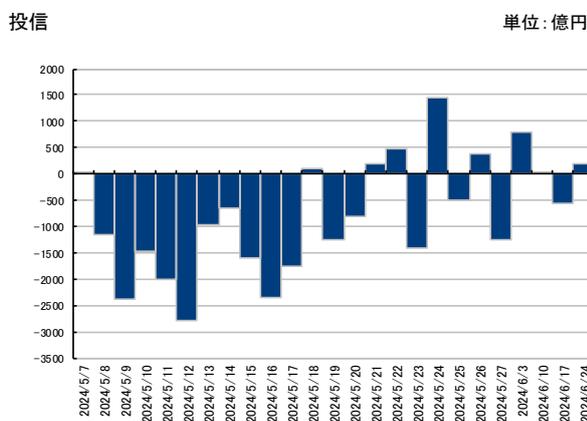
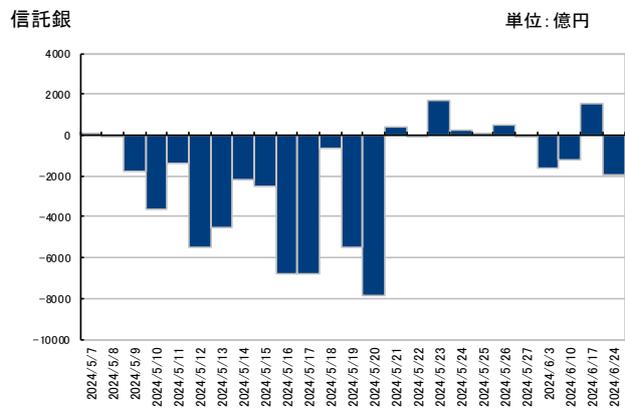
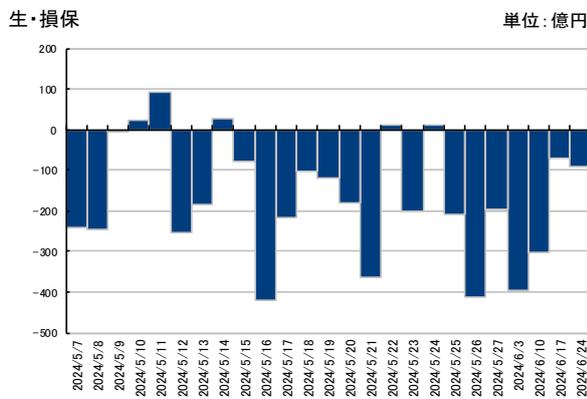
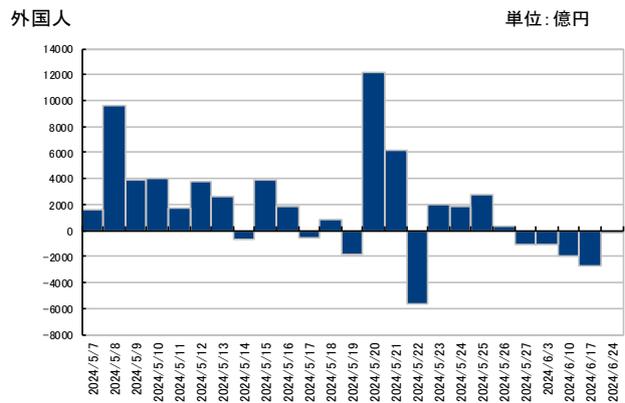
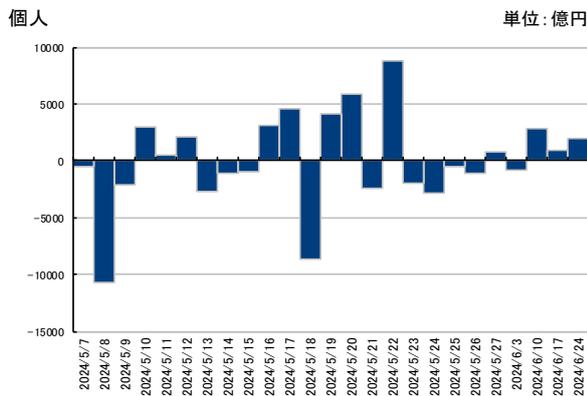
日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
7月1日	シティ	4592	サンバイオ	2→3格下げ	500→1100
7月2日	モルガン	8570	イオンFS	UNDERWEIGHT新規	1200
	大和	2875	東洋水産	2→3格下げ	10000→10500
	東海東京	6036	キーパー技研	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	6500→4150
		7282	豊田合	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	3480→2980
7月3日	みずほ	9072	ニッコンHD	買い→中立格下げ	3200→3700
	大和	5471	大同特鋼	2→3格下げ	1800→1600
7月4日	ゴールドマン	9843	ニトリHD	買い→中立格下げ	21500→17500
7月5日	ゴールドマン	3309	積水ハウスR	中立→売り格下げ	79000→68000
		8804	東建物	買い→中立格下げ	3100→2800
		8905	イオンモール	買い→中立格下げ	2100
		8964	フロンティア	買い→中立格下げ	487000→435000

## 6月第4週:外国人投資家は総合で買い越しに転じる

6月第4週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は総合で3850億円と買い越しに転じた。現物、TOPIX先物、225先物すべてで買い越しに転じた。個人投資家は総合で5395億円と売り越しに転じた。

そのほか、投信は292億円と売り越しに転じ、都地銀は740億円と買い越しに転じた。生・損保は467億円と売り越しを継続し、事法は773億円と売り越しに転じ、信託は273億円と売り越しを継続した。

なお、自己は現物で買い越しに転じ、TOPIX先物で売り越しに転じ、225先物は買い越しを継続し、総合で1832億円と買い越しを継続した。この週の裁定残は前週末比2183.84億円増（買い越し）とネットベースで1兆8890.31億円の買い越しとなった（買い越し幅増加）。週間の騰落率は日経平均で2.56%の上昇だった。



単位:億円

現物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	24/03/18	9,265	▲8,730	829	93	▲252	▲104	42	▲676
24/03/25	5,261	4,113	▲1,832	▲1,252	▲406	▲121	▲510	▲5,495	
24/04/01	▲9,671	5,836	12,110	▲823	715	▲182	▲542	▲7,845	
24/04/08	▲4,058	▲2,372	6,138	184	280	▲363	▲39	404	
24/04/15	▲3,802	8,752	▲5,618	483	489	11	▲353	▲41	
24/04/22	▲439	▲1,921	2,030	▲1,412	543	▲202	▲118	1,707	
24/04/30	▲1,420	▲2,913	1,909	1,446	704	10	309	257	
24/05/07	▲2,522	▲528	2,701	▲499	1,363	▲208	▲248	85	
24/05/13	▲2,153	▲1,093	384	374	2,477	▲412	▲24	492	
24/05/20	▲840	715	▲1,017	▲1,258	2,325	▲196	▲11	▲108	
24/05/27	932	▲865	▲1,102	793	2,514	▲395	▲191	▲1,644	
24/06/03	▲2,280	2,811	▲1,941	15	2,904	▲301	▲90	▲1,250	
24/06/10	▲2,085	975	▲2,694	▲570	2,513	▲70	▲137	1,557	
24/06/17	▲2,557	1,910	▲185	186	2,276	▲91	▲22	▲1,918	
24/06/24	4,141	▲4,722	1,141	▲85	▲681	▲386	▲201	33	

単位:億円

TOPIX先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	24/03/18	▲3,793	274	3,013	106	▲2	49	▲208	344
24/03/25	▲1,969	▲1,047	▲6,002	1,993	▲10	15	▲1,482	8,692	
24/04/01	948	▲100	▲3,381	345	▲4	193	674	1,546	
24/04/08	▲118	▲221	2,603	91	11	▲67	493	▲2,902	
24/04/15	1,886	▲84	▲2,424	416	▲3	▲53	▲203	422	
24/04/22	▲355	▲375	491	313	▲4	▲22	51	▲23	
24/04/30	▲769	844	▲73	19	▲7	▲115	▲161	205	
24/05/07	▲496	▲794	▲1,194	▲144	▲1	41	2,355	210	
24/05/13	776	697	▲1,797	11	▲0	53	33	194	
24/05/20	▲808	▲547	1,137	61	▲0	66	▲70	106	
24/05/27	▲625	▲237	1,040	▲92	5	▲109	56	18	
24/06/03	1,312	388	▲1,367	▲28	▲5	16	▲243	▲110	
24/06/10	850	▲72	▲645	67	7	▲35	181	▲422	
24/06/17	3,416	▲317	▲3,158	▲42	0	11	80	43	
24/06/24	▲3,311	▲95	1,787	180	▲2	▲81	▲48	1,560	

単位:億円

日経平均先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	24/03/18	2,918	306	▲4,442	▲1,135	35	▲1	943	1,228
24/03/25	▲662	172	▲2,005	1,074	51	0	1,557	211	
24/04/01	▲4,473	1,357	▲267	663	▲15	567	1,169	408	
24/04/08	536	▲747	▲1,880	2,064	▲93	195	78	183	
24/04/15	1,065	614	▲866	697	118	0	▲1,479	221	
24/04/22	▲2,096	▲994	▲692	889	▲48	0	427	977	
24/04/30	▲213	445	▲105	413	▲11	▲7	▲12	▲201	
24/05/07	1,954	▲768	▲2,300	37	▲5	14	821	324	
24/05/13	▲104	914	▲614	▲332	▲20	1	316	▲236	
24/05/20	41	▲387	316	▲546	46	▲10	640	▲352	
24/05/27	▲1,199	▲446	350	513	12	1	386	456	
24/06/03	1,020	339	▲59	▲754	▲2	0	▲262	▲274	
24/06/10	▲2,990	158	3,821	450	▲26	▲94	51	▲1,408	
24/06/17	3,304	▲725	▲3,049	▲15	▲17	0	▲488	956	
24/06/24	1,002	▲578	922	▲387	▲90	0	989	▲1,866	

※ データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。  
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件 (円)	公募株数 (株)	売出株数 (株)	公募価格 (円)	初値 (円)	主幹事	7/5終値 (円)
PRISM BioLab	206A	グロース	7/2	435~450	4,000,000	600,000	450	489	SMBC日興	573
事業内容:	独自の創薬基盤(PepMetrics技術)を用いた新規医薬品の研究・開発									
カドス・コーポレーション	211A	スタンダード	7/18	2,850~2,900	198,000	232,000	-	-	SMBC日興	-
事業内容:	土地活用の提案から設計・施工までトータルプロデュースすることにより、流通店舗の建築工事を受注する建設事業及び当該店舗等をテナント企業に賃貸する不動産事業									
フィットイージー	212A	スタンダード、名メイン	7/23	950~990	900,000	3,400,000	-	-	大和	-
事業内容:	アミューズメントフィットネスクラブの運営、企画、FC展開事業									
タイミー	215A	グロース	7/26~8/1	-	0	32,245,400	-	-	大和、MUMSS	-
事業内容:	スキマバイトサービス「タイミー」の運営等									
Liberaware	218A	グロース	7/29	-	1,700,000	1,444,900	-	-	SMBC日興	-
事業内容:	屋内狭小空間点検ドローン「IBIS」をベースにしたドローン等の開発と、点検サービス、ドローンのレンタル・販売、及びドローン等で収集したデータの処理・解析するサービスを提供									
Heartseed	219A	グロース	7/30	-	1,801,700	0	-	-	SMBC日興	-
事業内容:	重症心不全患者を対象とした iPS 細胞由来心筋球移植治療をはじめとする再生医療等製品の研究・開発									
Faber Company	220A	スタンダード	7/31	-	320,000	751,400	-	-	SBI	-
事業内容:	デジタルマーケティング自動化ツール「ミエルカ SEO」等SaaS提供、フリーランス人材等を活用したマーケティング支援									

## 雲上抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
2154	オープンUP	2120	2101	2039.5	2269	明治HD	3525	3469.75	3451.5
2317	システナ	343	282.25	330	2975	スター・マイカ・ホー	677	620.5	643
3769	GMOPG	9103	8713.25	9085	3836	アバントG	1413	1406	1376.5
4188	三菱ケミG	909	906.25	829.5	4396	システムサポート	1977	1935.25	1822.5
5957	日東精工	603	566.25	591.5	6005	三浦工	3464	2979.5	3414
6078	パリュールHR	1485	1406.25	1454.5	6222	島精機	1722	1634	1721
6235	オプトラン	2097	1764.5	2032	6395	タダノ	1181	1173.5	1126
6471	日本精工	809	801	806.5	6588	東芝テック	3575	3169.25	3535.5
6954	ファナック	4515	4171.5	4468.5	7606	Uアローズ	2098	1996.5	2095.5
7609	ダイロン	2936	2917	2798.5	7701	島津製	4200	3978.75	4065
8011	三陽商	2505	2423.5	2031	8113	ユニチャーム	5301	5149.5	5290.5
8803	平和不	3990	3931.25	3860	9386	日本コンセプト	1777	1757.75	1710
9702	アイエスピー	1500	1459.5	1432.5					

## 雲下抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1726	Br. HD	362	365.75	364	2752	フジオフード	1411	1413.5	1421
2760	東エレデバ	4260	4972.75	4296.5	3046	JINSHD	3845	4200	3874.5
3101	東洋紡	1042	1050.25	1053.5	3415	東京ベース	292	296	404
3580	小松マテーレ	752	815.75	782.5	4189	KHネオケム	2245	2280.75	2471.5
4368	扶桑化学	4025	4186.25	4042.5	4559	ゼリア新薬	2075	2076.25	2240
4812	電通総研	4965	5231.25	4990	4936	アクシージア	993	1016.25	1204
5757	CKサンエツ	3785	3811.25	3932.5	6104	芝浦機	3815	3825	3830.5
6118	アイダ	890	902.5	899.5	6183	ベルシス24	1569	1663	1585
6289	技研製作所	1948	1979.5	2321.5	6418	日金銭	1161	1267.75	1230
6465	ホシザキ	4945	5160.25	5112	6971	京セラ	1917	2069.25	1925.5
7384	プロクレアHD	1910	1922.5	2090	7818	トランザク	1806	2220	1975.5
7962	キングジム	870	875.25	894.5	8150	三信電気	2203	2212	2333.5
9005	東急	1722	1748.75	1803.5	9009	京成	5232	6319.75	5358
9021	JR西	2932	2992.25	2936	9216	ビーウィズ	1877	2154.5	1912
9843	ニトリHD	16500	16877.5	17032.5					

## 株式、債券、ファンド、上場ETF及び上場リートのご購入の際のご注意事項

当資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的としており、個別の金融商品の投資勧誘を目的として作成または提供するものではありません。当資料は、作成者が信頼できると判断した情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性や完全性を、または、将来の経済・市況動向等を予測・保証するものではありません。また、当資料中の見解等は今後予告なく変更される場合がありますので、投資に係る最終決定はご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。金融商品等の手数料等及びリスクについては、当該商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書及びお客さま向け資料等に記載しておりますので、よくお読みください。

### 【お取引時の手数料について】(営業店でお取引の場合の手数料率、税込表示)

- 国内株式の売買取引には約定代金に対して最大1.155%の売買手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。マルチネット取引で売買いただく場合には対面取引の基本手数料から20%割引(当該金額が2,200円に満たない場合には、一律2,200円)となります。又、外国株式の売買取引には売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合は加え、売りの場合は差し引いた金額)に対して最大0.88%の委託手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。
- 非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債等)を当社が相手方となり、お買付けいただく場合には、購入対価のみお支払いいただきます。
- ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。＜直接費用＞購入手数料(スイッチング手数料を含む)上限3.85%、換金手数料上限1.10%、信託財産留保額上限0.50%が必要となります。マルチネット取引の場合は購入手数料(スイッチング手数料を含む)、換金手数料について対面取引手数料の20%割引となります。  
＜間接費用＞運用管理費用(信託報酬)上限2.50%、(注)その他の費用・手数料(監査費用、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用、信託事務に要する諸費用等)をご負担頂きます。(注)その他費用・手数料は、運用状況等により変動する為、料率の上限等を示すことができません。
- 外国株式、外国債券、外国投資信託を売買取引する際の円貨と外貨の交換レートには、約定代金に応じて当社が決定する為替スプレッドがあります。

### 【リスクについて】

- <株式、上場ETF、債券のリスク>株式や上場ETFの売買取引については、株価の変動により投資元本を割り込むことがあります。債券は金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外国株式、外国債券及び外貨建て資産に投資する上場ETFは、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割り込むことがあります。
- <為替リスク>外貨建て商品の場合、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動あるいは外貨交換の際の為替スプレッドにより、円換算ベースで投資元本を割り込み損失を被る場合があります。
- <上場リートのリスク>リートは、不動産などで運用を行う上場投資法人です。リート市場価格については、金融経済動向、不動産市況、災害(地震、火災等)等の影響を受け変動し損失が生じるおそれがあります。分配金は不動産などからの収入に応じ変動します。金融商品取引所が定める基準に抵触し上場廃止になった場合には、取引が著しく困難になる可能性があります。
- <ファンドのリスク>ファンドは、主に国内外の株式、債券、不動産投資信託証券など値動きのある有価証券等(外貨建て資産には為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は大きく変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。また、「毎月分配型」及び「通貨選択型」ファンドの「収益分配金に関する留意事項」及び「通貨選択型投資信託の収益イメージ」は、必ずご確認ください重要な事項となっておりますので、投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みください。



商号等 ひろぎん証券株式会社  
加入協会 金融商品取引業者中国財務局長(金商)第20号  
日本証券業協会

(帳票J-10-002 企画部2024年4月改正)

本店営業部	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-3-8	TEL:082-245-5000	三次支店	〒728-0012 三次市十日市中2-13-26	TEL:0824-62-3121
今治営業所	〒794-0022 今治市室屋町1-1-13	TEL:0898-55-8280	可部支店	〒731-0221 広島市安佐北区可部3-20-21	TEL:082-815-2600
福山支店	〒720-0812 福山市霞町1-1-1	TEL:084-922-1321	広島西支店	〒733-0841 広島市西区井口明神1-17-4	TEL:082-277-2700
岡山営業所	〒700-0826 岡山市北区磨屋町1-3	TEL:086-222-1561	東広島支店	〒739-0014 東広島市西条昭和田2-7	TEL:082-422-3621
府中支店	〒726-0004 府中市府川町335-1	TEL:0847-45-8500	廿日市支店	〒738-0024 廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
尾道支店	〒722-0035 尾道市土堂2-7-11	TEL:0848-23-8121	岩国支店	〒740-0018 岩国市麻里布町2-7-7	TEL:0827-22-3161
因島支店	〒722-2323 広島県尾道市因島土生町2017-3	TEL:0845-22-2291	徳山支店	〒745-0034 周南市御幸通2-15	TEL:0834-31-5350
竹原支店	〒725-0026 竹原市中央5-5-5	TEL:0846-22-2295	宇部支店	〒755-0029 宇部市新天町2-3-3 ポスティビル3階	TEL:0836-31-1105
三原支店	〒723-0014 三原市城町1-25-1	TEL:0848-67-6681	萩支店	〒758-0027 萩市吉田町51-11	TEL:0838-25-2121
呉支店	〒737-0045 呉市本通3-5-4	TEL:0823-21-6401			

ネットセンター(インターネット取引) <https://www.hirogin-sec.co.jp>  
コールセンター(コール取引) フリーアクセス:0120-506-084